

# FUJITSU Tablet ARROWS Tab

ARROWS Tab V567/R

## 製品ガイド

---

本書をお読みになる前に

**1** 各部名称

**2** 取り扱い

**3** 周辺機器

**4** お手入れ

**5** 仕様

# 目次

<b>本書をお読みになる前に</b> .....	<b>5</b>
安全にお使いいただくために .....	5
本書の表記 .....	5
Windowsの操作 .....	6
BIOSやドライバーのアップデートについて .....	7
商標および著作権について .....	8
<b>第1章 各部名称</b>	
1.1 タブレット本体表面 .....	10
1.2 タブレット本体右側面 .....	11
1.3 タブレット本体左側面 .....	12
1.4 タブレット本体裏面 .....	13
1.5 充電専用クレードル .....	14
<b>第2章 取り扱い</b>	
2.1 タッチパネル .....	16
2.1.1 注意事項 .....	16
2.1.2 基本操作 .....	17
2.1.3 文字を入力する .....	18
2.1.4 キャリブレーション .....	18
2.2 ディスプレイ .....	20
2.2.1 注意事項 .....	20
2.2.2 明るさを調整する .....	20
2.2.3 解像度を変更する .....	22
2.2.4 拡大表示設定を変更する .....	22
2.2.5 ディスプレイ省電力テクノロジー .....	23
2.3 マルチディスプレイ機能 .....	24
2.3.1 マルチディスプレイ機能とは .....	24
2.3.2 注意事項 .....	24
2.3.3 マルチディスプレイ機能を設定する .....	25
2.4 画面表示の回転 .....	26
2.4.1 注意事項 .....	26
2.4.2 状態が変わったときの動作を設定する .....	26

2.5	サウンド	27
2.5.1	全体の再生音量を調節する	27
2.5.2	ソフトウェアごとの再生音量を調節する	27
2.5.3	機器や項目ごとの音量を調節する	28
2.5.4	既定のオーディオ機器を選択する	29
2.6	省電力	31
2.6.1	省電力状態	31
2.6.2	電源を切る	32
2.6.3	本タブレットの節電機能	33
2.6.4	省電力設定	33
2.7	バッテリー	34
2.7.1	注意事項	34
2.7.2	バッテリーを充電する	35
2.7.3	バッテリーの残量を確認する	35
2.7.4	バッテリーの状態を確認する	35
2.8	通信	36
2.8.1	無線LAN	36
2.8.2	Bluetoothワイヤレステクノロジー	37
2.8.3	無線通信機能の電波を発信する／停止する	37
2.9	通話	39
2.9.1	使用できる通話アプリ	39
2.9.2	通話アプリの設定	40
2.9.3	画面の誤操作防止（画面オフ）機能	41
2.9.4	着信通知ユーティリティ	41
2.9.5	マナーモード	42
2.10	ステータスパネルスイッチ	45
2.10.1	注意事項	45
2.10.2	ステータスパネルスイッチを起動する	45
2.10.3	ステータスパネルスイッチでモードを切り替える	46
2.10.4	各モードの設定を変更する	47
2.11	ダイレクト・メモリースロット	49
2.11.1	注意事項	49
2.11.2	使用できるメモリーカード	49
2.11.3	メモリーカードをセットする	50
2.11.4	メモリーカードを取り出す	51
2.12	セキュリティチップ（TPM）	52
2.13	防塵防滴性能	53
2.13.1	防滴性能でできること	53
2.13.2	防塵防滴性能を維持するために	53

## 第3章 周辺機器

3.1 周辺機器を取り付ける前に .....	56
3.1.1 注意事項 .....	56
3.2 充電専用クレードル .....	57
3.2.1 注意事項 .....	57
3.2.2 充電専用クレードルを取り付ける .....	58
3.2.3 充電専用クレードルを取り外す .....	59
3.3 コネクタの接続／取り外し .....	60
3.3.1 注意事項 .....	60
3.3.2 USBコネクタ .....	60
3.3.3 オーディオ端子 .....	61

## 第4章 お手入れ

4.1 日常のお手入れ .....	63
4.1.1 タブレット本体、充電専用クレードルの表面の汚れ .....	63
4.1.2 液晶ディスプレイ／タッチパネル .....	63

## 第5章 仕様

5.1 本体仕様 .....	65
5.1.1 ARROWS Tab V567/R .....	65
5.2 CPU .....	68
5.3 ディスプレイ .....	69
5.3.1 シングル表示／拡張デスクトップ表示の解像度 .....	69
5.3.2 クローン表示の解像度 .....	70
5.4 無線LAN .....	71

# 本書をお読みになる前に

## 安全にお使いいただくために



本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が『取扱説明書』に記載されています。特に、「安全上のご注意」をよくお読みになり、理解されたうえで本製品をお使いください。

## 本書の表記

本書の内容は2017年8月現在のもので、お問い合わせ先やURLなどが変更されている場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」へお問い合わせください。詳しくは、『取扱説明書』をご覧ください。

### ■ 本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
	お使いになるときの注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
→	参照ページを示しています。

### ■ 連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつなげて記述しています。

例：コントロールパネルの「システムとセキュリティ」をタップし、「システム」をタップし、「デバイスマネージャー」をタップする操作

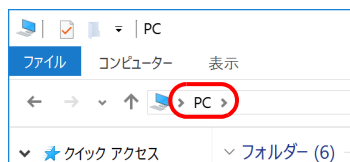


「システムとセキュリティ」→「システム」の「デバイスマネージャー」の順にタップします。

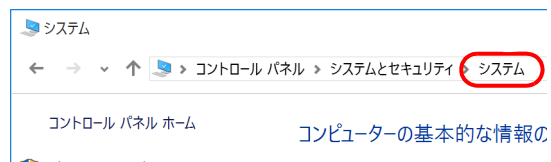
### ■ ウィンドウ名の表記

本文中のウィンドウ名は、アドレスバーの最後に表示されている名称を表記しています。

例：



↓  
「PC」ウィンドウ



↓  
「システム」ウィンドウ

## ■ 画面例およびイラスト

本文中の画面およびイラストは一例です。お使いの機種やモデルによって、実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、イラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略したり形状を簡略化したりしていることがあります。

## ■ 周辺機器の使用

本文中の操作手順において、DVDなどを使用することがあります。

必要に応じて別売の周辺機器を用意してください。

使用できる周辺機器については、富士通製品情報ページ内にある「システム構成図」(<http://www.fmworld.net/biz/fmv/product/syskou/>)をご覧ください。

また、使用方法については、周辺機器のマニュアルをご覧ください。

## ■ 本文に記載している仕様とお使いの機種との相違

ご購入時の構成によっては、本文中の説明がお使いの機種の仕様と異なる場合があります。

あらかじめご了承ください。

なお、本文内において、機種やOS別の書き分けがある箇所については、お使いの機種のお読みください。

## ■ 製品名の表記

本文中では、製品名称を次のように略して表記します。

製品名称	本文中の表記		
Windows 10 Pro 64ビット版	Windows 10 (64ビット版)	Windows 10	Windows
Windows Media® Player 12	Windows Media Player		
Bluetooth®	Bluetooth		
Roxio Creator LJ	Roxio Creator		

# Windowsの操作

---

## ■ アクションセンター

アプリケーションからの通知を表示する他、タップすることで画面の明るさ設定や通信機能の状態などを設定できるアイコンが表示されます。

- 1 画面の右端を左方向に、画面の外から中へスワイプします。  
画面右側に「アクションセンター」が表示されます。

## ■ 「コントロールパネル」 ウィンドウ

次の手順で「コントロールパネル」ウィンドウを表示させてください。

- 1 「スタート」ボタン→「Windows システム ツール」→「コントロールパネル」の順にタップします。

## ■ Windowsのヘルプ

本書で説明されていないWindowsの機能については、次の操作で表示されるWindowsのヒントをご覧ください。


Windowsのヒントのご利用は、ネットワークに接続する必要があります。

- 1 「スタート」ボタン→「ヒント」をタップします。
- 2 画面左側のメニューで「ヒントを参照する」をタップします。

## ■ ユーザーアカウント制御


本書で説明しているWindowsの操作の途中で、「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示される場合があります。これは、重要な操作や管理者の権限が必要な操作の前にWindowsが表示しているものです。表示されるメッセージに従って操作してください。

## ■ 通知領域のアイコン

デスクトップ画面の通知領域にすべてのアイコンが表示されていない場合があります。表示されていないアイコンを一時的に表示するには、通知領域の  をタップします。

## ■ Windows モビリティセンター

本タブレットのいくつかの機能は、「Windows モビリティセンター」で操作できます。「Windows モビリティセンター」は次の操作で起動します。

- 1 デスクトップ画面右下の通知領域にある「電源」アイコン () を長押しし、「Windows モビリティセンター」をタップします。

### POINT

- ▶ 次の操作でも表示できます。
  1. 画面左下隅の「スタート」ボタンを長押しし、表示されたメニューから「モビリティセンター」をタップします。

## BIOSやドライバーのアップデートについて

---

本タブレットには、さまざまなソフトウェアや周辺機器の接続／制御に必要なBIOS、ドライバーなどが搭載されています。

これらのソフトウェア、BIOS、ドライバーに対して、アップデートプログラムが提供されることがあります。

アップデートプログラムには、次のような内容が含まれています。

- 機能の向上、追加
- 操作性の向上
- 品質改善

本タブレットをより快適にお使いいただくために、常に最新版のBIOSやドライバーを適用してください。

アップデート方法については、弊社アップデートサイト ([http://www.fmworld.net/biz/fmv/index\\_down.html](http://www.fmworld.net/biz/fmv/index_down.html)) をご覧ください。

## 商標および著作権について

---


Intel、インテル、Intel ロゴ、Intel Atom、Intel SpeedStepは、アメリカ合衆国および/またはその他の国における Intel Corporation の商標です。

Bluetooth® のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、富士通株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。

Roxio、Roxioのロゴ、Roxio Creatorは、カナダ、アメリカ合衆国および/またはその他の国の Corel Corporation および/またはその関連会社の商標または登録商標です。

FeliCaは、ソニー株式会社の登録商標です。

FeliCaは、ソニー株式会社が開発した非接触ICカードの技術方式です。

SDXCロゴは SD-3C, LLC. の商標です。 

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

その他のすべての商標は、それぞれの所有者に帰属します。

Copyright FUJITSU LIMITED 2017

本タブレットは、VCCI 自主規制措置運用規程に基づく技術基準に適合した文言、またはマークを画面に電子的に表示しています。表示の操作方法は、『製品ガイド（共通編）』の「付録3 認定および準拠について」をご覧ください。

本タブレットは、電波法ならびに電気通信事業法に基づく技術基準に適合しています。表示の操作方法は、『製品ガイド（共通編）』の「付録3 認定および準拠について」をご覧ください。



# 1

## 第1章

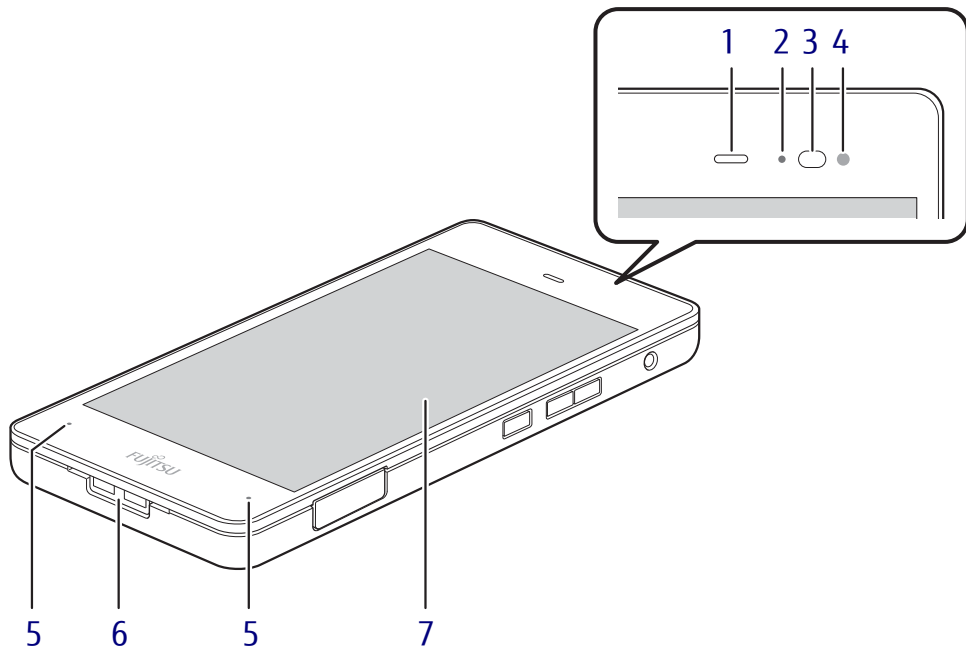
---

### 各部名称

各部の名称と働きについて説明しています。

1.1	タブレット本体表面	10
1.2	タブレット本体右側面	11
1.3	タブレット本体左側面	12
1.4	タブレット本体裏面	13
1.5	充電専用クレードル	14

## 1.1 タブレット本体表面



### 1 スピーカー／レシーバー

スピーカー (内蔵スピーカー)	音楽再生やアプリからの音声出力のモード
レシーバー (受話スピーカー)	通話アプリからの音声出力のモード

#### POINT

- ▶ 内蔵スピーカーと受話スピーカーはそれぞれで音量が保持されます。

### 2 LED

充電時や着信時に点灯します。

### 3 近接センサー

### 4 照度センサー

(→P.20)

### 5 マイク

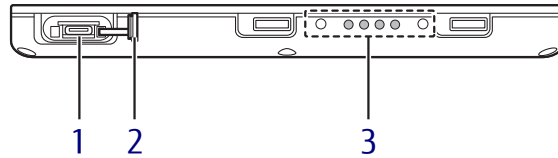
音声通話や録音ができます。


### 6 ストラップ取付穴

### 7 液晶ディスプレイ／タッチパネル

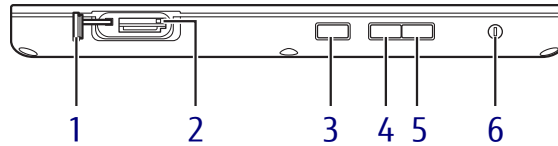
(→P.20) / (→P.16)

## 1.2 タブレット本体右側面



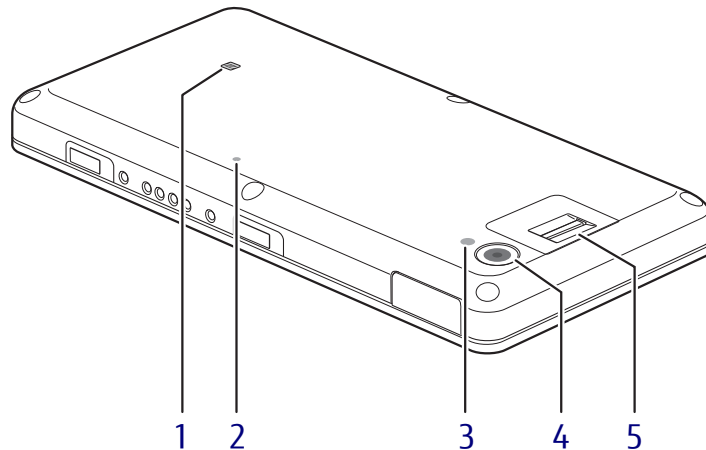
- |  |   |
|--|---|
| <p><b>1</b>  USB Type-C コネクタ<br/>添付のUSBケーブル（TypeA-TypeC）を接続し、タブレット本体を充電します。<br/>（→P.60）</p> | <p><b>2</b> カバー</p> <p><b>3</b> ドッキングコネクタ<br/>（→P.58）</p> |
|--|---|

## 1.3 タブレット本体左側面



- 1 カバー**
- 2 microSD ダイレクト・メモリスロット**  
microSDメモリーカードを差し込みます。  
(→P.49)
- 3 電源ボタン**  
タブレット本体の電源を入れたり、省電力  
状態 (→P.31) にしたりします。
- 4 ボリュームダウンボタン (-)**  
音量を小さくします。(→P.27)
- 5 ボリュームアップボタン (+)**  
音量を大きくします。(→P.27)
- 6 ヘッドホン・ヘッドセット兼用端子**  
(→P.61)

## 1.4 タブレット本体裏面



### 1 NFCポート

(NFCポート搭載機種)

Windowsの起動、ソフトウェアのサインイン時に、非接触ICカード技術方式FeliCaに対応したICカードによるセキュリティを設定できます。IDやパスワードなどのセキュリティ情報は、ICカードに格納します。詳しくは、『SMARTACCESSファーストステップガイド』をご覧ください。

#### POINT

- ▶ NFCを使用する場合は、**N**マークの付近に近づけてください。
- ▶ ICカードはタブレット本体から3mm以下に近づし、**N**マークを中心に前後左右10mmの範囲内で動かしてください。

### 2 通気穴

テープなどでふさいだり、とがったもので穴を押さないでください。故障の原因となります。

### 3 モバイルライト

### 4 アウトカメラ

静止画や動画を撮影するときに使用します。

#### POINT

- ▶ バッテリー残量が少ない状態では、アウトカメラでの写真撮影時のモバイルライトの明るさが暗くなります。

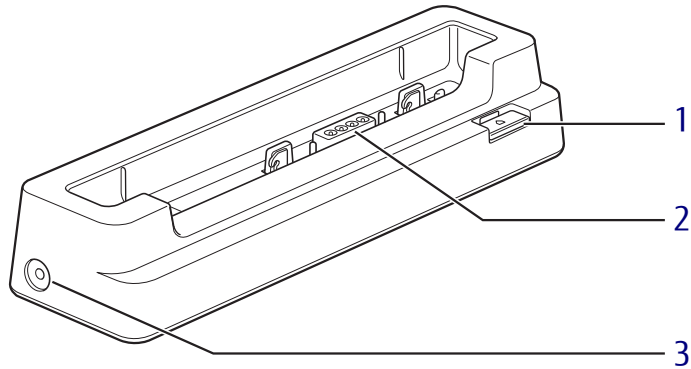
### 5 指紋センサー

(指紋センサー搭載機種)

コンピューターやWindowsの起動時などに指紋認証によるセキュリティを設定できます。

詳しくは、『SMARTACCESSファーストステップガイド』をご覧ください。

## 1.5 充電専用クレードル




**1 取り外しボタン**

タブレット本体を充電専用クレードルから取り外す場合に押します。(→P.59)

**2 本体接続コネクタ**

タブレット本体にあるドッキングコネクタを接続します。(→P.58)

**3  DC-IN コネクタ**

充電専用クレードル専用のACアダプタを接続します。

# 2

## 第2章

---

### 取り扱い

本タブレットを使用するうえでの基本操作や、本タブレットに取り付けられている（取り付け可能な）周辺機器の基本的な取り扱い方について説明しています。

2.1	タッチパネル	16
2.2	ディスプレイ	20
2.3	マルチディスプレイ機能	24
2.4	画面表示の回転	26
2.5	サウンド	27
2.6	省電力	31
2.7	バッテリー	34
2.8	通信	36
2.9	通話	39
2.10	ステータスパネルスイッチ	45
2.11	ダイレクト・メモリスロット	49
2.12	セキュリティチップ（TPM）	52
2.13	防塵防滴性能	53

## 2.1 タッチパネル

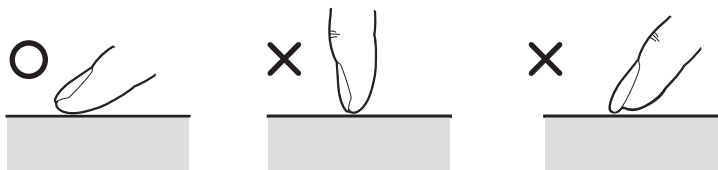
本タブレットのタッチパネルは、タッチ入力に対応しています。タッチ入力では指で画面をタッチするだけで、マウスポインターを操作できます。画面上で直接操作できるので、直感的でスピーディな操作が可能です。

### POINT

▶ 本タブレットのタッチパネルでは、複数箇所を同時にタッチする操作ができます。

### 2.1.1 注意事項

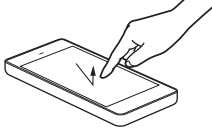
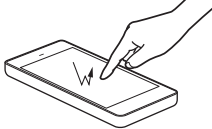
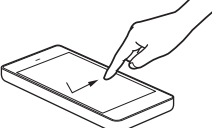
- 液晶ディスプレイ（タッチパネル）の表面は指紋が付きにくい加工が施されています。このため、液晶ディスプレイ（タッチパネル）を下にして置くと、滑りやすくなりますので、ご注意ください。
- 液晶ディスプレイ（タッチパネル）の表面をこすると帯電する場合がありますので、ご注意ください。
- 次のようなときに、画面にムラが発生する場合があります。
  - ・ 表示面・天板面にかかわらず、液晶ディスプレイに強い圧力を加えたとき
  - ・ タブレット本体の側面や裏面を押したり、強い圧力を加えたりしたとき
- 液晶ディスプレイ（タッチパネル）に、ほこりや皮脂が付着していると、タッチ機能が正しく動作しない場合があります。
- アプリによっては、タッチ機能の反応が悪い場合や、タッチ機能に対応していない場合があります。
- 画面を強く押さないでください。
- 濡れた手や、指先が汚れた状態で操作しないでください。
- つめや手袋をした指では操作できません。必ず、指の皮膚の部分が画面に触れるようにしてください。





## 2.1.2 基本操作

画面上でタップ（マウスのクリックと同様の操作）する場合は、指で操作します。  
マウスポインターは、画面上をなぞった方向に移動します。

機能	指の操作	
タップ		画面を1回軽くたたきます。
長押し		画面を押し、画面に枠が表示されてから指を離します。
ダブルタップ		画面を素早く2回連続して軽くたたきます。
ポイント		画面に軽く触れます。
ドラッグ		画面に軽く押しつけながらなぞります。

## 2.1.3 文字を入力する

---

キーボードを使わずに文字を入力するには、「タッチ キーボード」を使用します。

### ■ 注意事項

- Windowsにサインインしていない状態では「タッチ キーボード」は使用できません。

### ■ 「タッチ キーボード」を使う

「タッチ キーボード」では、手書きパッドおよびタッチ キーボードによる文字の入力ができます。

「タッチ キーボード」を表示するには、テキスト入力領域をタップします。

#### POINT

- ▶ 「タッチ キーボード」が表示されない場合は、次の操作を行ってください。
  1. デスクトップ画面のタスクバーを長押しします。
  2. 「タッチキーボードボタンを表示」をタップします。  
タスクバーに「キーボード」のアイコンが表示されます。
  3. 「キーボード」のアイコンをタップします。  
画面に「タッチ キーボード」が表示されます。

## 2.1.4 キャリブレーション

---

キャリブレーションとは、画面上で実際にタップした位置とタブレットが「タップされた」と認識する位置とを一致させるための作業です。入力位置がずれてきた場合にはキャリブレーションを行ってください。

#### POINT

- ▶ キャリブレーションを行うときに、調整ポイントが言語バーの下に隠れる場合があります。言語バーを最小化しておくことをお勧めします。

- 1 「コントロールパネル」ウィンドウ（→P.6）を表示します。
- 2 「ハードウェアとサウンド」→「タブレットPC設定」の順にタップします。  
「タブレットPC設定」が表示されます。
- 3 「画面」タブの「調整」をタップします。
- 4 「タッチ入力」をタップします。
- 5 画面の「+」マークの交点を正確に指でタップします。  
「+」マークが次の調整ポイントに移動します。

#### POINT

- ▶ 指の皮膚の部分でタップしてください。つめや手袋をした指での操作はできません。

**6** 同様に「+」マークを順番にタップします。

**7** 「はい」をタップします。

 **POINT**

- ▶ キャリブレーションを行ってずれが生じてしまった場合は、次の手順でご購入時の設定に戻すことができます。
  1. 「コントロールパネル」ウィンドウ（→P.6）を表示します。
  2. 「ハードウェアとサウンド」→「タブレットPC設定」の順にタップします。  
「タブレットPC設定」が表示されます。
  3. 「画面」タブで、「リセット」をタップします。  
ご購入時の設定に戻ります。

## 2.2 ディスプレイ

ここでは、本タブレットの液晶ディスプレイを使う方法について説明しています。複数のディスプレイを使ってマルチディスプレイ機能を使う方法については、「2.3 マルチディスプレイ機能」(→P.24)をご覧ください。

### 2.2.1 注意事項


- 解像度などを変更するときに一時的に画面が乱れることがありますが、故障ではありません。

### 2.2.2 明るさを調整する

本タブレットの液晶ディスプレイの明るさは、次の方法で変更できます。自動調整の機能が有効の場合、手動での調整はできません。

#### ■ 自動的に調整する

ご購入時は、明るさを自動的に調整する機能が有効(ON)に設定されています。この機能の有効(ON)／無効(OFF)の切り替えは次の手順で行います。


- 1 「スタート」ボタン→ (すべてのアプリ) → 「FUJITSU - ステータスパネルスイッチ」→ 「ステータスパネルスイッチ」の順にタップします。  
「ステータスパネルスイッチ」ウィンドウが表示されます。
- 2 「画面の明るさ自動調整」ボタンをタップします。  
ボタンをタップするたびに、ON／OFFが切り替わります。

#### 重要

- ▶ 照度センサーが周囲の明るさを検知します。照度センサーをテープやシールなどでふさがないようにください。

## ■ 手動で調整する

### □ スライダーで変更する

- 1 「スタート」ボタン→ (設定) → 「システム」の順にタップします。
- 2 画面左側のメニューで「ディスプレイ」をタップします。
- 3 画面右側のメニューで「明るさレベルの調整」のスライダーを左右に動かします。  
スライダーを右に動かすと明るく、左に動かすと暗くなります。

#### POINT

- ▶ アクションセンター (→P.6) でも明るさを調整できます。  
タイトルをタップすることにより、明るさのレベルが変わります。


### □ 「Windows モビリティセンター」で変更する

- 1 「Windows モビリティセンター」 (→P.7) を起動します。
- 2 「ディスプレイの明るさ」のスライダーを左右に動かします。

明るさの設定は、現在選択されている電源プランの現在の電源状態 (「バッテリー駆動」または「電源に接続」) に対して行われます。それ以外の状態の明るさの設定を変更するには、「□ 「電源オプション」で変更する」 (→P.21) をご覧ください。

### □ 「電源オプション」で変更する

現在と異なる電源状態 (「バッテリー駆動」または「電源に接続」) の明るさの設定は、「電源オプション」で変更できます。

- 1 「スタート」ボタン→ (設定) → 「システム」の順にタップします。
- 2 画面左側のメニューで「電源とスリープ」をタップします。
- 3 画面右側の関連設定の「電源の追加設定」をタップします。  
「電源オプション」が表示されます。
- 4 設定を変更するプランの「プラン設定の変更」をタップします。
- 5 明るさを変更し、「変更の保存」をタップします。

## 2.2.3 解像度を変更する

---

ここでは、ディスプレイの解像度、リフレッシュレートの変更方法について説明します。

- 1 デスクトップで長押しし、「グラフィックス・プロパティ」をタップします。  
「インテル® HDグラフィックス・コントロール・パネル」が表示されます。
- 2 「ディスプレイ」アイコンをタップします。
- 3 「解像度」、「リフレッシュ・レート」を設定します。  
設定可能な値は、「5.3.1 シングル表示／拡張デスクトップ表示の解像度」(→P.69)をご覧ください。
- 4 「適用」をタップします。  
確認のメッセージが表示された場合は、メッセージに従って操作します。

### 重要

- ▶ 画面が正常に表示されない場合は、何もせずに15秒程度待ってください。変更前の設定に戻ります。

## 2.2.4 拡大表示設定を変更する

---

ご購入時の解像度より小さい解像度に設定した場合、画面を拡大して表示できます。

- 1 デスクトップで長押しし、「グラフィックス・プロパティ」をタップします。  
「インテル® HDグラフィックス・コントロール・パネル」が表示されます。
- 2 「ディスプレイ」アイコンをタップします。
- 3 「スケーリング」を設定します。
  - ・縦横比を保持する  
画面の縦横比を維持したまま最大限に拡大されます。
  - ・全画面のスケールにする  
画面がディスプレイ全体に拡大されます。
  - ・画像を中央揃えにする  
画面は拡大されずに中央に表示されます。
  - ・ディスプレイ・スケーリングを保持する  
ディスプレイの拡大表示機能を使用します。

### POINT

- ▶ ディスプレイの種類や解像度により表示されない項目がある場合があります。

- 4 「適用」をタップします。  
確認のメッセージが表示された場合は、メッセージに従って操作します。

### 重要

- ▶ 画面が正常に表示されない場合は、何もせずに15秒程度待ってください。変更前の設定に戻ります。

## 2.2.5 ディスプレイ省電力テクノロジー

---

「ディスプレイ省電力テクノロジー」は、見た目の画質を維持したままバックライトの省電力を行い、バッテリー駆動時間を延ばす機能です。

### ■ 注意事項

- バッテリー駆動時のみ動作します。  
ご購入時は次のように設定されています。
  - ・ディスプレイ省電力テクノロジー：「オン」
  - ・レベル：「最長バッテリー駆動時間」
- ディスプレイ省電力テクノロジーが動作しているときは、次のように表示される場合がありますが、故障ではありません。
  - ・表示している画像を切り替えたときに画面の明るさや色調が徐々に変更される。
  - ・画像のグラデーション部分に段差が見える。

### ■ ディスプレイ省電力テクノロジーを設定する

- 1** デスクトップで長押しし、「グラフィックス・プロパティー」をタップします。  
「インテル® HDグラフィックス・コントロール・パネル」が表示されます。
- 2** 「電源」アイコンをタップします。
- 3** 「ディスプレイ省電力テクノロジー」を設定します。
  - ・動作させる場合は、「有効」をタップし、動作レベルのバーを設定します。  
バーを左に設定するほど画質が優先され、バーを右に設定するほどバッテリー駆動時間が優先される設定になります。
  - ・動作させない場合は、「無効」をタップするか、「最高画質」に設定します。
- 4** 「適用」をタップします。  
「適用」をタップすると、画面にメッセージが表示されることがあります。  
この場合は、画面の指示に従って操作してください。
- 5** 画面右上の「閉じる」をタップして、画面を閉じます。

## 2.3 マルチディスプレイ機能

本タブレットに外部ディスプレイを接続すると、マルチディスプレイ機能が使えるようになります。

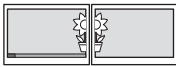
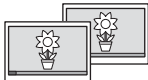
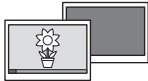
ディスプレイの取り扱いについては、お使いのディスプレイのマニュアルをご覧ください。外部ディスプレイを接続する方法については、「3.3 コネクタの接続／取り外し」(→P.60)をご覧ください。

### 重要

- ▶ 次の方法で、外部ディスプレイを接続することができます。
  - ・ タブレット本体のUSB Type-Cコネクタに、市販のUSB Type-C-HDMI変換ケーブルおよびUSB Type-C-VGA変換ケーブルを接続する

### 2.3.1 マルチディスプレイ機能とは

マルチディスプレイ機能により、複数のディスプレイを使用した次のような表示方法を選択できます。

表示方法	説明
 拡張デスクトップ表示	複数のディスプレイを1つの画面として表示します。Windowsのタスクバーはすべてのディスプレイに表示されます。それぞれのディスプレイの解像度は別々に設定できます。
 クローン表示	複数のディスプレイに同一の画面を表示します。すべてのディスプレイの解像度は同じである必要があります。
 シングル表示	複数のディスプレイのどれか1つに画面を表示します。表示するディスプレイは切り替えることができます。

### 2.3.2 注意事項

- お使いのディスプレイと本タブレットの両方が対応している解像度のみ表示できます。お使いのディスプレイのマニュアルをご覧ください。表示可能な解像度を確認してください。
- マルチディスプレイ機能を変更するときは、動画を再生するソフトウェアは終了してください。
- マルチディスプレイ機能は、Windowsが起動している場合にのみ有効です。
- 解像度などを変更するときに一時的に画面が乱れることがありますが、故障ではありません。



## 2.3.3 マルチディスプレイ機能を設定する

---

- 1 デスクトップで長押しし、「グラフィックス・プロパティ」をタップします。  
「インテル® HDグラフィックス・コントロール・パネル」が表示されます。
- 2 「ディスプレイ」アイコンをタップします。
- 3 画面左側のメニューで「マルチ・ディスプレイ」をタップします。  
本タブレットを横にしているときに、画面左側のメニューが表示されます。  
本タブレットを縦にしているときは、画面上部の「ディスプレイ」横にあるアイコンをタップし、表示されたメニューから「マルチ・ディスプレイ」をタップしてください。
- 4 「ディスプレイ・モードの選択」を設定します。
  - ・シングル表示にする場合、「シングル・ディスプレイ」を選択します。
  - ・クローン表示にする場合、「クローン・ディスプレイ」を選択します。
  - ・拡張デスクトップにする場合、「拡張デスクトップ」を選択します。必要に応じて、表示されているディスプレイをドラッグして、2つのディスプレイの位置を設定します。「1」と表示されているのがプライマリディスプレイです。
- 5 「アクティブ・ディスプレイの選択」を選択します。
  - ・接続されているディスプレイの名前が表示されており、タップして別のディスプレイの名前を選択することで、順番を変更できます。
  - ・一番上がプライマリディスプレイです。
  - ・3つのディスプレイを表示できる状態で、「なし」を選択すると、2つのディスプレイ表示に設定できます。
- 6 「適用」をタップします。  
確認のメッセージが表示された場合は、メッセージに従って操作します。

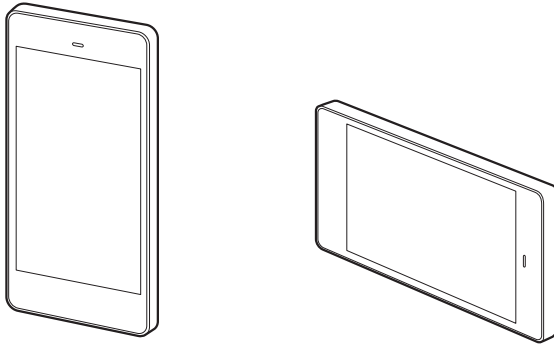
### 重要

- ▶ 画面が正常に表示されない場合は、何もせずに15秒程度待ってください。変更前の設定に戻ります。
- 7 必要に応じて「解像度」、「リフレッシュ・レート」を設定します。
    1. 画面左側のメニューで「一般設定」をタップします。
    2. 「ディスプレイの選択」から設定を変更するディスプレイを選択します。  
「解像度」、「リフレッシュ・レート」の設定方法は「2.2.3 解像度を変更する」(→P.22)をご覧ください。

設定可能な値は、「5.3.1 シングル表示／拡張デスクトップ表示の解像度」(→P.69)をご覧ください。

## 2.4 画面表示の回転

本タブレットは横向きでも縦向きでも操作できます。タブレット本体の向きを変えたときに自動的に変更するように設定できます。




### 2.4.1 注意事項

- 画面表示の向きの設定は、Windowsが起動している場合にのみ有効です。
- 表示するディスプレイを切り替えたときの画面表示について
  - ・ 外部ディスプレイのみで表示した場合、タブレット本体の向きを変えるように動かすと、外部ディスプレイの表示も回転します。

### 2.4.2 状態が変わったときの動作を設定する

#### ■ ステータスパネルスイッチで設定を変更する

タブレット本体を傾けたときに、傾けた向きに応じて自動的に画面表示の向きが変更されるように設定できます。

- 1 「スタート」ボタン →  (すべてのアプリ) → 「FUJITSU - ステータスパネルスイッチ」 → 「ステータスパネルスイッチ」の順にタップします。  
「ステータスパネルスイッチ」ウィンドウが表示されます。
- 2 「自動回転」ボタンをタップします。  
ボタンを押すたびに、デスクトップ画面左上部に「自動回転オフ」「自動回転オン」と表示され、タブレット本体を傾けたときの画面の自動回転のオン／オフが切り替わります。

## 2.5 サウンド

---

ここでは、音量の調節方法などについて説明しています。  
オーディオ端子に機器を接続する方法については、「3.3.3 オーディオ端子」(→ P.61)をご覧ください。

### 2.5.1 全体の再生音量を調節する


---

タブレット本体のスピーカーや、本タブレットに接続されたヘッドホンの再生音量は、次の操作で調節します。

ボリュームダウン／ボリュームアップボタンで変更する

- 1 ボリュームダウンボタン、またはボリュームアップボタンを押します。  
画面左上部に音量を示すインジケータが表示されます。


通知領域アイコンで変更する

- 1 デスクトップ画面右下の通知領域にある「スピーカー」アイコン () をタップします。
- 2 スライダーで音量を調節します。

### 2.5.2 ソフトウェアごとの再生音量を調節する

---

ソフトウェアごとの再生音量は「音量ミキサー」で調節します。

- 1 音量を調節するソフトウェアを起動します。
- 2 デスクトップ画面右下の通知領域にある「スピーカー」アイコン () を長押しし、「音量ミキサーを開く」をタップします。
- 3 「アプリケーション」の一覧で、音量の設定を変更したいソフトウェアの音量を調節します。

## 2.5.3 機器や項目ごとの音量を調節する

機器や項目ごとの音量は次の手順で調節します。

調節できる機器や項目は、「■ 再生するときに調節できる機器と項目」(→P.28)、「■ 録音するときに調節できる機器と項目」(→P.28)をご覧ください。

### POINT

- ▶ スピーカー（内蔵スピーカー）／レシーバー（受話スピーカー）の音量を調節するにはオーディオ選択メニューでスピーカー（内蔵スピーカー）およびレシーバー（受話スピーカー）を「サウンド」の既定のデバイスに設定してから、機器や項目ごとの音量の調節をします。  
スピーカー（内蔵スピーカー）／レシーバー（受話スピーカー）の音量調節が終わったら、必要に応じてオーディオ選択メニューで「サウンド」の既定のデバイスを元の設定に戻します。
- ▶ 本タブレットに接続したヘッドホンから出力される音の再生音量を調節するには、機器を接続してから機器や項目ごとの音量の調節をします。オーディオ選択メニューによる設定は必要ありません。

- 1 音量を調節したい機器が接続されていない場合は接続します。  
「3.3.3 オーディオ端子」(→P.61)
- 2 デスクトップ画面右下の通知領域にある「スピーカー」アイコン (🔊) を長押しし、「再生デバイス」または「録音デバイス」をタップします。
- 3 音量を調節したい機器を長押しし、「プロパティ」をタップします。
- 4 「レベル」タブをタップします。
- 5 音量を調節したい項目で音量を調節し、「OK」をタップします。

### ■ 再生するときに調節できる機器と項目

機器	項目	説明
スピーカー	Intel SST Audio Device (WDM)	タブレット本体のスピーカーや本タブレットに接続されたヘッドホンから出力される音の再生音量

### ■ 録音するときに調節できる機器と項目

機器	項目	説明
マイク	Intel SST Audio Device (WDM)	タブレット本体のマイクから入力される音の録音音量

## 2.5.4 既定のオーディオ機器を選択する

タブレット本体のスピーカー（内蔵スピーカー）、レシーバー（受話スピーカー）を既定のオーディオ機器に選択するには、オーディオ選択メニューを使用します。


### 重要

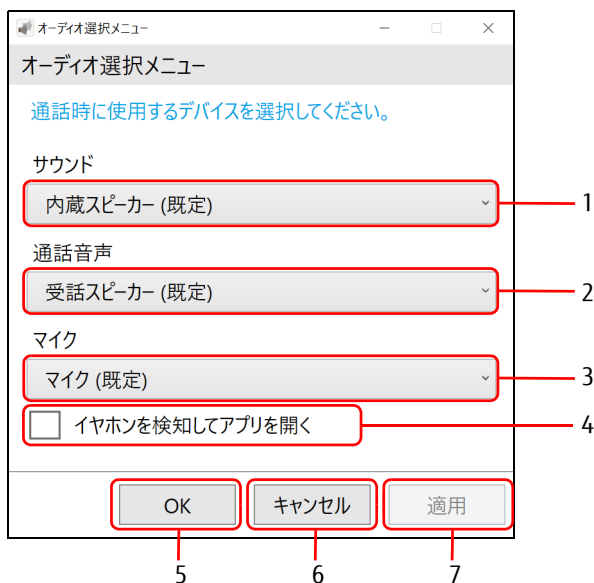
- ▶ オーディオ出力機能をもった周辺機器（Bluetooth機器など）を初めて接続する時は、お使いの機器が「既定」に設定されているか確認してください。

## ■ 「オーディオ選択メニュー」 を起動する

### POINT

- ▶ ご購入時の設定は、Windowsにサインインするとオーディオ選択メニューは自動的に起動します。タスクバーにある「オーディオ選択メニュー」アイコンをタップして「オーディオ選択メニュー」を表示してください。

- 1 「スタート」ボタン → （すべてのアプリ） → 「FUJITSU - スピーカー切り替えユーティリティ」 → 「オーディオ選択メニュー」の順にタップします。



	概要
1 サウンド	Windowsのサウンドや、通話アプリの着信音を再生するデバイスを選択します。
2 通話音声	通話アプリの通話音声を再生するデバイスを選択します。
3 マイク	録音と通話アプリに使用する録音デバイスを選択します。
4 チェックボックス	チェックを付けると、サウンドデバイスの接続や取り外しを検知して、アプリケーションを開きます。 (オーディオ端子への脱着は検知しません。)

	概要
5 OKボタン	「1」、「2」、「3」で選択したデバイスを既定のデバイスに設定して、アプリケーションを最小化します。
6 キャンセルボタン	「1」、「2」、「3」の選択をキャンセルして、アプリケーションを最小化します。
7 適用ボタン	「1」、「2」、「3」で選択したデバイスを既定のデバイスに設定します。

 **重要**

- ▶ 音声を録音または再生する機器が複数使用可能な場合、オーディオ選択メニューに表示されるデバイス名が同じ名前になることがあります。  
その場合は次の手順で表示名を変更してください。
  1. デスクトップ画面右下の通知領域にある「スピーカー」アイコン (🔊) を長押しし、「再生デバイス」または「録音デバイス」をタップします。  
「サウンド」ウィンドウが表示されます。
  2. 表示名を変更するデバイスを選択し、プロパティをタップします。
  3. 表示名を変更して「OK」をタップします。
  4. 「OK」をタップします。

## 2.6 省電力

ここでは、タブレットを使わないときに省電力にする省電力状態と、その他の節電機能について説明しています。


### 2.6.1 省電力状態

Windowsの動作を一時的に中断させた状態です。スリープ状態と休止状態があります。スリープ状態ではメモリにWindowsの状態を保存するため、電力を少しずつ消費しますが、素早くレジュームできます。休止状態ではフラッシュメモリにWindowsの状態を保存するため、電源が切れてもWindowsの状態を保存できます。

#### ■ 注意事項

- 状況により省電力状態にならない場合があります。メッセージが表示された場合は、メッセージに従って操作してください。
- 状況により省電力状態になるのに時間がかかる場合があります。
- レジュームした後、すぐに省電力状態にしないでください。必ず10秒以上たってから省電力状態にするようにしてください。
- 省電力状態にした後、すぐにレジュームしないでください。必ず10秒以上たってからレジュームするようにしてください。

#### ■ 省電力状態にする

操作/条件	動作
電源ボタンを押す <sup>注</sup>	スリープ状態になります。 「■ 電源プランの設定を変更する」(→P.33)
メニューから選択する	次の操作で選択したメニューの動作になります。 1. 「スタート」ボタン→  (電源) の順にタップし、メニューを選択します。
一定時間操作しない	スリープ状態になります。 「■ 電源プランの設定を変更する」(→P.33)

注 : 電源ボタンは10秒以上押さないでください。電源ボタンを10秒以上押すと、Windowsが正常終了せずに本タブレットの電源が切れてしまいます。

#### ■ 省電力状態からレジュームする

操作/条件	動作
電源ボタンを押す	レジュームします。

## 2.6.2 電源を切る

---

ここでは、Windowsを終了させてタブレット本体の電源を切る方法を説明します。

### ■ 注意事項

- 電源を切る前に、すべての作業を終了し必要なデータを保存してください。
- 電源を切るとき、ノイズが発生することがあります。その場合はあらかじめ音量を下げておいてください。
- 電源を切った後、すぐに電源を入れないでください。必ず10秒以上たってから電源を入れるようにしてください。

### ■ 電源の切り方

次のいずれかの方法で、タブレット本体の電源を切ります。


#### Windowsを終了する

- 1 「スタート」ボタン→  (電源) の順にタップします。
- 2 「シャットダウン」をタップします。

#### 完全に電源を切る

##### 重要

- ▶ 次のような場合は、ここで説明している手順でタブレットの電源を切ってください。
  - ・ BIOS セットアップを起動する
  - ・ 診断プログラムを使用する
  - ・ フラッシュメモリデータ消去

- 1 「スタート」ボタン→  (設定) → 「更新とセキュリティ」の順にタップします。
- 2 画面左側のメニューで「回復」をタップします。
- 3 画面右側のメニューで「今すぐ再起動する」をタップします。
- 4 「PCの電源を切る」をタップします。



## 2.6.3 本タブレットの節電機能

本タブレットに搭載されている節電機能と、それらが有効となるタブレットの状態との関係は次のとおりです。

節電機能	タブレットの状態		
	電源オン	スリープ状態	休止状態／電源オフ
省電力設定 (→P.33) タブレットの消費電力を低減する。	○	—	—
ステータスパネルスイッチ (→P.45) タブレットの消費電力を低減する。	○	—	—


### POINT

- ▶ ステータスパネルスイッチで省電力モードの切り替えを行います。  
詳しくは、「2.10 ステータスパネルスイッチ」(→P.45)をご覧ください。

## 2.6.4 省電力設定

使用状況にあわせて電源プランを切り替えることで、消費電力を節約できます。

### ■ 電源プランの設定を変更する

- 1 「スタート」ボタン→  (設定) → 「システム」の順にタップします。
- 2 画面左側のメニューで「電源とスリープ」をタップします。
- 3 画面右側の関連設定の「電源の追加設定」をタップします。  
「電源オプション」が表示されます。
- 4 設定を変更するプランの「プラン設定の変更」をタップします。
- 5 「詳細な電源設定の変更」をタップします。
- 6 リストから項目を選択し、設定を変更します。

### POINT

- ▶ 一部の設定は手順1や手順2で表示される画面でも変更できます。

- 7 「OK」をタップします。

### POINT

- ▶ 電源プランを作成するには、ウィンドウ左の「電源プランの作成」をタップし、メッセージに従って操作します。

## 2.7 バッテリー

ここでは、バッテリーを使用して本タブレットを使用する方法や注意事項について説明しています。

バッテリーの充電時間や駆動時間など、バッテリーの仕様については「5.1 本体仕様」(→P.65)をご覧ください。

### 2.7.1 注意事項

#### ■ バッテリーで運用するとき

- 本タブレットの使用中にバッテリーの残量がなくなると、作成中のデータが失われることがあります。バッテリーの残量に注意してお使いください。バッテリーの残量を確認するには、「2.7.3 バッテリーの残量を確認する」(→P.35)をご覧ください。
- ご購入直後や修理直後、まれにバッテリー残量が正しく表示されない場合がありますが、故障ではありませんのでそのままお使いください。バッテリーの放電をした後、充電完了まで充電することで自動的に補正され正しい値になります。
- 本タブレットの機能を多用したり負荷の大きいソフトウェアを使用したりすると、多くの電力を消費するためバッテリーの駆動時間が短くなります。このような場合や重要な作業を行う場合は、ACアダプタを接続することをお勧めします。
- 本タブレットを省電力モードにすることにより、バッテリー駆動時間を長くすることができます。ただし、モードを切り替える前の状態によっては、バッテリー駆動時間が長くない場合もあります。モードの切り替え方法については、「2.10 ステータスパネルスイッチ」(→P.45)をご覧ください。
- 「バッテリー残量が低下しています。充電してください。30秒後にシャットダウンします。」というメッセージが表示された場合は、しばらく充電してから再度電源を入れてください。
- バッテリーは使用しなくても少しずつ自然放電していきます。
- 低温時にはバッテリー駆動時間が短くなる場合があります。
- 周囲やタブレット本体の温度が高すぎたり低すぎたりすると、バッテリーの充電能力が低下します。また、ACアダプタを接続している場合も、タブレット本体の使用状況によりバッテリー残量が減る場合があります。

#### ■ 寿命について

- バッテリーは消耗品です。長期間使用すると充電能力が低下し、バッテリー駆動時間が短くなります。バッテリーの駆動時間が極端に短くなったり、満充電にならなくなったりしたらバッテリーの寿命です。「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
- タブレット本体を長期間使用しない場合でも、バッテリーは劣化します。

## 2.7.2 バッテリーを充電する

---

- 1 タブレット本体にACアダプタを接続します。  
充電が始まります。バッテリーの充電状態は、LED (→P.10) で確認できます。


バッテリー充電ランプ	バッテリーの充電状態
赤色	充電中
消灯	・ 充電完了 ・ ACアダプタが接続されていない

### POINT

- ▶ バッテリーの残量が少なくなると自動的に充電が始まります。

## 2.7.3 バッテリーの残量を確認する

---

バッテリーの残量は、デスクトップ画面右下の通知領域にある「電源」アイコン (  ) をタップすると確認できます。


なお、表示されるバッテリーの残量は、バッテリーの特性上、使用環境 (温度条件やバッテリーの充放電回数など) により実際のバッテリーの残量とは異なる場合があります。

## 2.7.4 バッテリーの状態を確認する

---

バッテリーの情報の確認は、「バッテリーユーティリティ」で行うことができます。


### ■ バッテリーの情報を確認する

- 1 「スタート」ボタン →  (すべてのアプリ) → 「FUJITSU - バッテリーユーティリティ」 → 「バッテリーユーティリティ」の順にタップします。
- 2 「バッテリーの情報」をタップします。  
「サイクル数」、「消耗状態」などを確認できます。

## 2.8 通信

ここでは本タブレットの通信機能について説明しています。  
ネットワーク機器を接続してお使いになる場合は、お使いのネットワーク機器のマニュアルもご覧ください。また、搭載されている通信機能の仕様については、「5.1 本体仕様」(→P.65)をご覧ください。

### POINT


- ▶ 本タブレットには、ネットワーク環境を簡単に切り替えられるユーティリティ「Plugfree NETWORK」が添付されています。「Plugfree NETWORK」の詳しい使い方は、次の操作で表示されるヘルプをご覧ください。
  1. 「スタート」ボタン→ (すべてのアプリ) → 「Plugfree NETWORK」 → 「使用場所管理の使い方」および「ネットワーク診断の使い方」の順にタップします。

### 2.8.1 無線LAN

無線LANについては、『無線LANご利用ガイド』をご覧ください。  
無線LANの設定については、ネットワーク管理者に確認してください。  
また、無線LANの仕様については、「5.4 無線LAN」(→P.71)をご覧ください。  
本タブレットは、電波法ならびに電気通信事業法に基づく技術基準に適合しています。

#### ■ 無線LANの種類を確認する

搭載されている無線LANの種類を確認するには、次の操作を行います。

- 1 「スタート」ボタン→ (設定) → 「システム」の順にタップします。
- 2 画面左側のメニューで「バージョン情報」をタップします。
- 3 画面右側の関連設定の「デバイスマネージャー」をタップします。  
「デバイスマネージャー」が表示されます。
- 4 「ネットワークアダプター」をダブルタップします。  
本タブレットに搭載されている無線LANの種類が表示されます。

## 2.8.2 Bluetoothワイヤレステクノロジー

Bluetoothワイヤレステクノロジーとは、ヘッドセットやワイヤレスキーボード、携帯電話などの周辺機器や他のBluetoothワイヤレステクノロジー搭載のタブレットなどに、ケーブルを使わず電波で接続できる技術です。

Bluetoothワイヤレステクノロジーについては、『Bluetoothワイヤレステクノロジーご利用ガイド』をご覧ください。

また、Bluetoothワイヤレステクノロジーのバージョンについては、「5.1 本体仕様」(→P.65)をご覧ください。


## 2.8.3 無線通信機能の電波を発信する／停止する

病院や飛行機内、その他電子機器使用の規制がある場所では、あらかじめ無線通信機能の電波を停止してください。

電波の発信／停止は次の方法で変更できます。

### ■ ステータスパネルスイッチ

ステータスパネルスイッチで、電波の発信／停止を切り替えます。


- 1 「スタート」ボタン→  (すべてのアプリ) → 「FUJITSU - ステータスパネルスイッチ」 → 「ステータスパネルスイッチ」の順にタップします。  
「ステータスパネルスイッチ」ウィンドウが表示されます。
- 2 「ワイヤレスオフモード」ボタンをタップします。  
ボタンをタップするたびに、ON／OFFが切り替わります。

#### POINT

- ▶ 無線デバイスの発信／停止を個別に切り替えることもできます。詳しくは、「2.10 ステータスパネルスイッチ」(→P.45)をご覧ください。

### ■ Windowsの機能

Windowsの機能で、無線通信機能の電波の発信／停止を切り替えることもできます。

- 1 「スタート」ボタン→  (設定) → 「ネットワークとインターネット」の順にタップします。
- 2 画面左側のメニューで「機内モード」をタップします。

### 3 画面右側の『機内モード』または「ワイヤレスデバイス」でそれぞれの設定を切り替えます。


「機内モード」では無線通信の電波をまとめて発信／停止します。特定の電波の発信／停止を設定する場合は「ワイヤレスデバイス」で設定します。

	機内モード	ワイヤレスデバイス
「オン」に設定	すべての無線通信機能を停止	電波を発信
「オフ」に設定	すべての無線通信機能を発信	電波を停止

#### 重要

- ▶ 電波を「停止」に切り替えた場合、すべての無線デバイスが「停止」になりますが、「発信」に切り替えた場合は、電波を「停止」する直前に「発信」の状態だったデバイスのみが「発信」となります。

#### POINT

- ▶ Bluetoothワイヤレステクノロジーは、次の操作でも設定を切り替えることができます。
  1. 「スタート」ボタン→  (設定) → 「デバイス」の順にタップします。
  2. 画面左側のメニューで「Bluetooth」をタップします。
  3. 画面右側のメニューで設定を切り替えます。
    - ・「オン」：電波を発信する
    - ・「オフ」：電波を停止する
- ▶ 特定の無線通信機能の電波だけを発信／停止することができます。
  1. 通知領域の「アクションセンター」アイコンをタップし、アクションセンターを表示します。
  2. 発信／停止したい機能をタップします。
    - 「利用可能」…無線LANを発信／停止したいときにタップします。
    - 「Bluetooth」…Bluetoothを発信／停止したいときにタップします。
    - 「機内モード」…タップすると機内モードのON/OFFを切り替えることができます。

## 2.9 通話

本タブレットでは、市販の通話アプリを利用することで、インターネットに接続した通話を行うことができます。

ここでは、代表的な通話アプリの対応状況や着信時の設定について説明しています。

### 2.9.1 使用できる通話アプリ

本タブレットで使用できる、代表的な通話アプリと、対応状況は次のとおりです。

#### □機能

- (1) 着信音と通話音声を、別々のサウンドデバイスで鳴らす
- (2) 着信時にバイブレーションおよびLEDを点灯させる
- (3) 待ち受け（コネクテッドスタンバイ）<sup>注1</sup>中に着信を受けられる
- (4) ビデオ通話ができる

#### □対応状況

通話アプリ	提供元	機能			
		(1)	(2)	(3)	(4)
Skype プレビュー	Microsoft	×	○	○	○
Lync <sup>注2</sup>	Microsoft	○	○	×	○
050 plus	NTT コミュニケーションズ	○	○	×	×
Skype for Windows	Microsoft	○	○	×	○
Skype for Business	Microsoft	○	○	×	○

注1：Lyncおよび050 plusは、充電中のみ待ち受け（コネクテッドスタンバイ）中の着信ができます。

注2：Lync2013は、「Windowsにログインすると自動的にLyncにサインインする」を「オン」に設定していても、手動でのサインインが必要な場合があります。

#### 重要

- ▶ 各通話アプリの動作については、弊社が保証するものではありません。  
各通話アプリの説明書に従ってご利用ください。
- ▶ 次の場合は、通話アプリへ着信があっても着信をとれないことがあります。
  - ・カメラ動画の撮影中など、継続してCPU負荷が高くなるアプリケーションが連続動作しているとき

#### □機能 (1) に対応していない通話アプリの場合



着信音と通話音声は、ご購入時に「オーディオ選択メニュー」の「サウンド」に設定されているオーディオデバイスが使用されます。

「サウンド」を「受話スピーカー」を選択した場合は、通話中以外でも「画面の誤操作防止（画面オフ）機能」（→P.41）が動作することがあります。

## 2.9.2 通話アプリの設定

ご購入時は、消費電力を抑えるために省電力設定になっています。そのため、ネットワーク接続が切断されたり、アプリのバックグラウンド処理が停止される場合があります。設定を変更することにより、ネットワーク接続の継続性を優先したり、省電力機能をオフにすることで通話アプリが使いやすくなる場合があります。次の設定例を参考に、ご利用の環境でのバッテリーの持ちと使いやすさを事前にご確認のうえ、通話アプリをご利用ください。

### □ 設定例

- Wi-Fi ドライバ
  - オーミングの積極性 最高
- 省電力設定
  - ・スリープの設定
    1. 「スタート」ボタン→ (設定) → 「システム」の順にタップします。
    2. 画面左側のメニューで「電源とスリープ」をタップします。
    3. 画面右側のメニューで「スリープ」を設定します。
      - 「退席中であることをデバイスが認識しているときに電力を節約する」をオフにする
      - 「スリープ中もネットワークに接続したままにする (バッテリー駆動時)」にチェックを付ける
  - ・バッテリーの設定
    1. 「スタート」ボタン→ (設定) → 「システム」の順にタップします。
    2. 画面左側のメニューで「バッテリー」をタップします。
      - 「バッテリー残量が次の数値を下回ったときにバッテリー節約機能を自動的にオンにする」のチェックを外す
- ネットワーク設定
  - 「自動的に接続」にチェックを付ける
- ロック画面
 

ロック画面中の着信操作を行えるかどうかは、各アプリとWindows 10の動作によって異なります。事前にご確認のうえ、最適な設定でご利用ください。

### 重要

- ▶ 本設定は、携帯電話や内線PHSと同様の、常時接続・常時待ち受けを保証するものではありません。
- ▶ 待ち受け (コネクテッドスタンバイ) 中の着信は、Windows 10の仕様によって変更されることがあります。事前にご確認のうえご利用ください。
- ▶ 通話アプリを管理するサーバーによってプレゼンス管理されている場合は、着信動作がプレゼンス状態によって制御されることがあります。詳しくは、お使いの通話アプリのマニュアルをご確認ください。



## 2.9.3 画面の誤操作防止（画面オフ）機能

通話アプリ利用時は、着信すると、受話スピーカーに切り替わります（初期設定状態）。受話スピーカーに切り替わった状態で、ディスプレイ側に顔を近づけると、画面を消灯しタッチパネル操作を抑止する機能が働きます。

本機能は、通話中かどうかに関わらず、受話スピーカーに切り替えた状態で動作します。

## 2.9.4 着信通知ユーティリティ

「着信通知ユーティリティ」は、通話アプリで着信時に、LED表示とバイブレーションで着信を通知する機能です。

### ■ 「着信通知ユーティリティ」 対応する通話アプリ

通話アプリ	
Skype プレビュー	Windows 10 標準搭載
Lync	Windows ユニバーサルアプリ
050 plus	Windows ユニバーサルアプリ
Skype for Windows	Windows 10 デスクトップアプリ（Skype サイトからダウンロード）
Skype for Business	Windows 10 デスクトップアプリ（Office 製品に含まれる）

### ■ LEDパターンとバイブレーションパターンを変更する。

LEDパターンとバイブレーションパターンは、マナーモード設定アプリで変更できます。詳しくは「**■ バイブレーションとLED点灯の設定を変更する**」（→P.43）を参覧ください。

#### 重要

- ▶ 本ユーティリティは、すべての着信通知を保証するものではありません。着信については、各アプリのトースト出力によって、変わる場合があります。


## 2.9.5 マナーモード

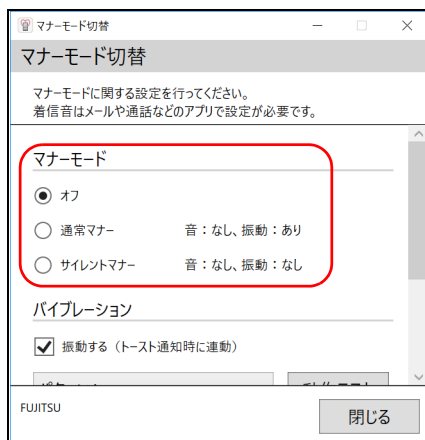
マナーモードに設定すると、着信時にサウンドを鳴らさないようにすることができます。対応した通話アプリ利用時に着信した場合の、LED表示とバイブレーションの動作の設定も行えます。

### ■ 注意事項

- 省電力状態からのレジューム時、サインアウト後の再サインイン時、シャットダウン（高速スタートアップ設定が有効の場合）からの再開時には、マナーモードの状態（通常マナー／サイレントマナー／オフ）は継続されます。
- 再起動後に通常マナーモードON／サイレントマナーモードONでご利用になる場合は、再起動後にマナーモードの再設定が必要になります。

### ■ マナーモードの設定を切り替える

- 1 「スタート」ボタン→  (すべてのアプリ) → 「FUJITSU - マナーモード」 → 「マナーモード設定アプリ」の順にタップします。「マナーモード切替」が表示されます。



- 2 「マナーモード」で、使用したいモードにチェックを付けます。選択したモードに切り替わります。


設定モード	
オフ	サウンドが鳴るモードです。
通常マナー	サウンドは鳴らず、通話アプリの着信時のバイブレーションを行うモードです。
サイレントマナー	サウンドは鳴らず、通話アプリの着信時のバイブレーションを行わないモードです。

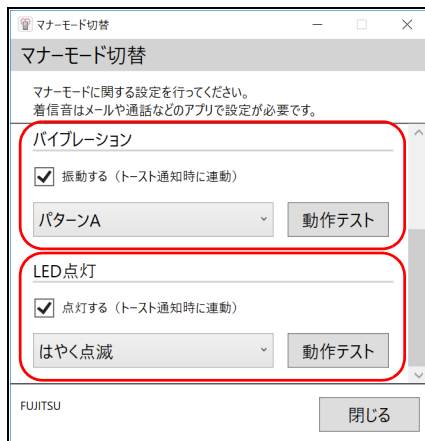
### POINT

- ▶ 着信時のバイブレーション／LED点灯に対応した通話アプリについては、「2.9.4 着信通知ユーティリティ」(→P.41)をご覧ください。

## ■ バイブレーションとLED点灯の設定を変更する

各モード共通で、着信時のバイブレーションとLED点灯のパターンの設定を行います。  
また、現在設定されているモードに対して、LED点灯を行うか、バイブレーションさせるかの設定もここでを行います。

- 1 「スタート」ボタン→  (すべてのアプリ) → 「FUJITSU - マナーモード」 → 「マナーモード設定アプリ」の順にタップします。  
「マナーモード切替」が表示されます。
- 2 画面をスクロールし、「バイブレーション」と「LED点灯」それぞれの設定を変更します。



### ● 「バイブレーション」の設定変更

「振動する (トースト通知時に連動)」にチェックを付ける	着信時にバイブレーションさせます。 マナーモードがオフの場合のみ設定できます。
ドロップダウンリストよりパターンを選択する	好みのバイブレーションのパターンを設定できます。 「動作テスト」をタップすると、選択したパターンを15秒間確認することができます。

### ● 「LED点灯」の設定変更

「点灯する (トースト通知時に連動)」にチェックを付ける	着信時にLEDを点灯させます。
ドロップダウンリストよりパターンを選択する	好みのLED点灯パターンを設定できます。 「動作テスト」をタップすると、選択したパターンを15秒間確認することができます。

- 3 「閉じる」をタップして、画面を閉じます。

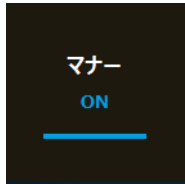

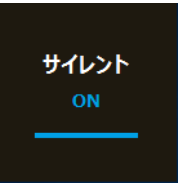
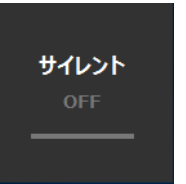
### 重要

- ▶ 着信時のバイブレーションとLED点灯は、チェックボックスやドロップダウンリストボックスを変更するとすぐに有効になります。特に、動作テストのために、パターンを変更した場合も有効になりますので、画面を閉じる前に設定をご確認ください。

## ■ ボリュームアップボタン／ボリュームダウンボタンでマナーモードを設定する

ボリュームアップボタンまたはボリュームダウンボタンを押すと、画面左上部にマナーモード切り替えアイコンを表示することができます。

- 1 ボリュームアップボタンまたはボリュームダウンボタンを押します。  
画面左上部に、音量を示すインジケータと現在設定しているマナーモードの状態のアイコンが表示されます。
- 2 マナーモード切替アイコンをタップします。  
タップすることにより、設定しているマナーモードのONとOFFが切り替わります。

通常マナー設定時		サイレントマナー設定時	
ON	OFF	ON	OFF
			

### 重要

- ▶ マナーモード切り替えアイコンは、操作をしないと約3秒で消えます。  
次の操作で、マナーモード切り替えアイコンの表示を延長することができます。
  - ・ボリュームアップボタンまたはボリュームダウンボタンを押す
  - ・マナーモード切り替えアイコンをタップする
- ▶ 「ディスプレイ設定」で、テキスト、アプリ、その他の項目のサイズを変更しても、マナーモード切り替えアイコンの見た目のサイズは変更されません。

## 2.10 ステータスパネルスイッチ

---

画面上のボタンを操作してモードを切り替えるだけで、画面の明るさやCPUのパフォーマンスなどを一括で変更し、タブレットを使用する状況に最適なモードに変更することができる機能です。


### 2.10.1 注意事項

---

- CPUパフォーマンスを次の設定にしていると動画の再生時にコマ落ちが発生する場合があります。
  - ・ 低
  - ・ 中このような場合には、「CPUパフォーマンス」を「高」設定にしてください。
- 各デバイスの状態を「ON」から「OFF」に切り替える場合、切り替え前にそのデバイスの使用を中止し、接続または挿入されているデバイスをすべて取り外してから切り替えてください。デバイスを使用中に切り替えると、デバイスを停止できない場合があります。また、各デバイスの状態を「OFF」から「ON」に切り替える場合は、切り替え後に各デバイスをタブレットに装着してください。
- Windowsへサインインした直後は、各デバイスの状態を切り替えると、切り替えに失敗する場合があります。各デバイスの状態の切り替えは、Windowsへサインインした後、しばらくしてから実行してください。

### 2.10.2 ステータスパネルスイッチを起動する

---

- 1 「スタート」ボタン →  (すべてのアプリ) → 「FUJITSU - ステータスパネルスイッチ」 → 「ステータスパネルスイッチ」の順にタップします。  
「ステータスパネルスイッチ」ウィンドウが表示されます。

## 2.10.3 ステータスパネルスイッチでモードを切り替える

- 1 「ステータスパネルスイッチ」ウィンドウの1段目の項目から使用したいモードのボタンをタップします。  
選択したモードに切り替わります。




設定モード	
プレゼンテーションモード	タブレットを使ってプレゼンテーションなどを行うのに適したモードです。画面の明るさが最大になり、画面の明るさ自動調整は「OFF」になります。 また、時間経過によるスリープ、スクリーンセーバーなどが抑止されます。
省電力モード	画面の明るさやCPUのパフォーマンスを下げることで、タブレットの消費電力を抑えることができるモードです。
ワイヤレスオフモード	無線LAN やBluetooth ワイヤレステクノロジーなどの無線通信機能の電波を停止するモードです。
カスタムモード	お使いになる状況により設定します。 設定については、「2.10.4 各モードの設定を変更する」(→P.47)をご覧ください。 ご購入時は設定されていません。

### POINT

- ▶ 2段目以降の項目は、それぞれの機能のボタンをタップすると、個別に状態を変更できます。
  - ・「ON/OFF」を切り替える場合：アイコンの色が青色（ON時）、グレー（OFF時）に表示されます。
  - ・複数の状態に切り替える場合：アイコンの絵柄が変わり、現在の状態が表示されます。モード設定の状態によっては、状態が固定され切り替えができない場合があります。
- ▶ (設定) → 「アイテム追加・解除」の順にタップすると、2段目以降に表示する項目を変更できます。
- ▶ 画面の明るさを、省電力モードで設定された画面の明るさよりも暗くしている場合は、省電力モードにしても画面が暗くならない場合があります。
- ▶ スーパークリアモードは、屋外など明るい場所では自動的に画面の明るさを最大にします。画面の明るさを調整したい場合は、スーパークリアモードを「OFF」にしてください。
- ▶ Windowsの機能（アクションセンターやコントロールパネル）で各デバイスの状態を変更した場合、「ステータスパネルスイッチ」ウィンドウに変更が自動的に反映されます。

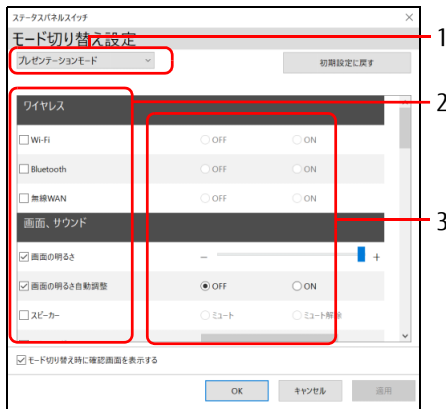
## 2.10.4 各モードの設定を変更する

各モードで制御するデバイスの選択や、各デバイスの状態を個別に変更できます。

- 1 「ステータスパネルスイッチ」ウィンドウで、 (設定) → 「モード切り替え設定」の順にタップします。




- 2 設定を変更します。
  1. モードを選択します。
  2. 制御するデバイスを選択します。
  3. デバイスの状態や値を設定します。



- 3 「適用」をタップします。
- 4 「OK」をタップします。

## ■ オプションの設定

ステータスパネルスイッチの動作を変更することができます。

- 1 「ステータスパネルスイッチ」ウィンドウで、 (設定) → 「オプション」の順にタップします。



- 2 「ステータスパネルスイッチ」ウィンドウの状態を設定します。

オプション設定項目	
最前面に表示する	「ステータスパネルスイッチ」ウィンドウを、常に他のウィンドウの前面に表示します。 ※ただし、最前面に表示設定している他のアプリケーションが起動している場合や、タブレットモードに設定している場合は、最前面に表示されないことがあります。
Windows起動時に自動的に起動する	Windows起動後のログイン時に、ステータスパネルスイッチが自動的に起動します。
タスクバーにアイコンを表示する	起動中タスクバーにアイコンを表示します。



## 2.11 ダイレクト・メモリースロット

ここでは、ダイレクト・メモリースロットに、SDメモリーカードをセットしたり取り出したりする方法について説明しています。

メモリーカードの取り扱いについては、お使いのメモリーカードのマニュアルをご覧ください。メモリーカードを周辺機器で使用する場合は、お使いの周辺機器のマニュアルもご覧ください。また、ダイレクト・メモリースロットの仕様については、「5.1 本体仕様」(→P.65)をご覧ください。

### 2.11.1 注意事項

- メモリーカードは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまった静電気により破壊される場合があります。メモリーカードを取り扱う前は、一度アルミサッシやドアノブなどの金属に手を触れて、静電気を放電してください。

### 2.11.2 使用できるメモリーカード

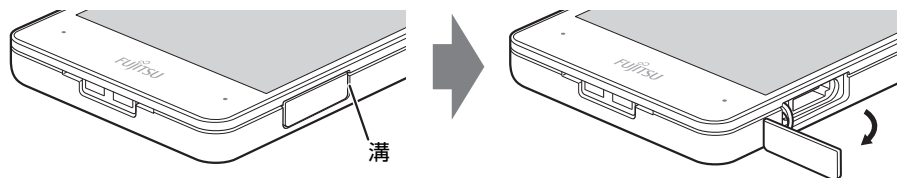
すべてのメモリーカードの動作を保証するものではありません。

メモリーカード		対応
SDメモリーカード <sup>注</sup>	microSDカード	○
	microSDHCカード	○
	microSDXCカード	○

注 : ・著作権保護機能には対応していません。  
・マルチメディアカード (MMC)、セキュアマルチメディアカードには対応していません。

## 2.11.3 メモリーカードをセットする

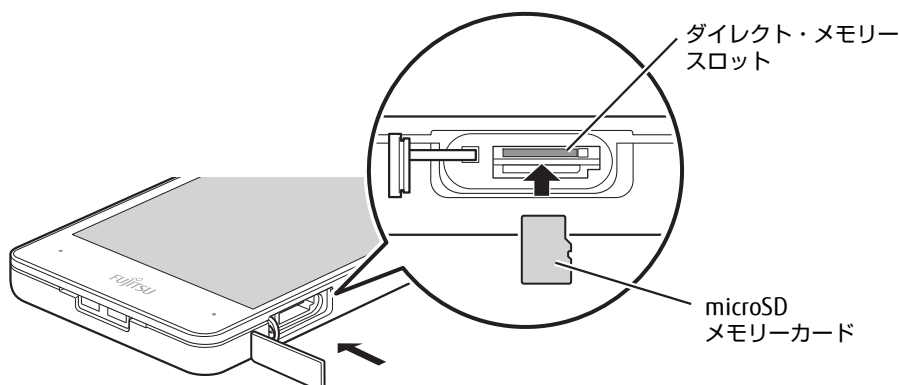
- 1 溝に指をかけ、矢印の方向にカードスロットカバーを開けます。



### POINT

- ▶ カードスロットカバーを開閉するときは、強く引っ張ったり、無理に曲げたり、ねじったりしないでください。

- 2 イラストのように、microSDメモリーカードをダイレクト・メモリースロット(→P.12)に差し込みます。



### POINT

- ▶ メッセージ(画面右下)が表示された場合は、そのメッセージをタップし、必要に応じて動作を選択するか、メッセージを閉じてください。

- 3 カードスロットカバーを閉じます。

### 重要

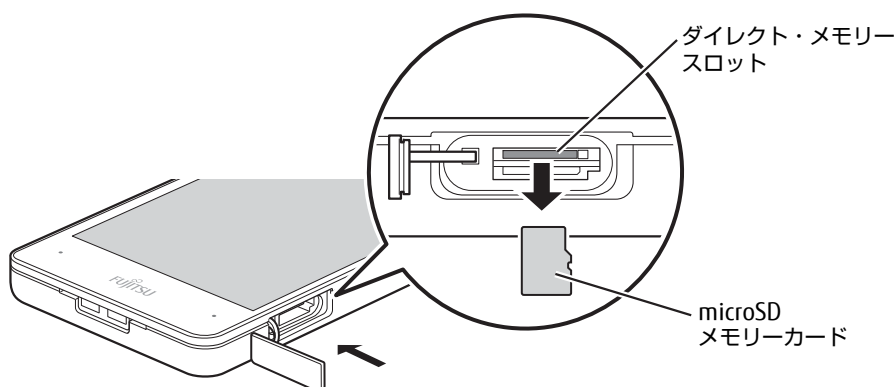
- ▶ カードスロットカバーは、水の浸入を防ぐため、しっかりと閉じてください。

## 2.11.4 メモリーカードを取り出す

- 1 カードスロットカバーの溝に指をかけ、カードスロットカバーを開けます。
- 2 デスクトップ画面右下の通知領域にある「ハードウェアの安全な取り外し」アイコン (🔌) をタップします。
- 3 取り外すメモリーカードをタップし、表示されるメッセージに従います。
- 4 microSDメモリーカードを一度押し、少し出てきたmicroSDメモリーカードを引き抜きます。

### 重要

- ▶ メモリーカードを強く押さないでください。指を離したときメモリーカードが飛び出し、紛失したり衝撃で破損したりするおそれがあります。また、ダイレクト・メモリースロットを人に向けたり、顔を近づけたりしないでください。メモリーカードが飛び出すと、けがの原因になります。



- 5 カードスロットカバーを閉じます。

### 重要

- ▶ カードスロットカバーは、水の浸入を防ぐため、しっかりと閉じてください。

## 2.12 セキュリティチップ (TPM)

---

セキュリティチップ (TPM) は、ドライブを暗号化したときの暗号鍵などの重要なデータを格納・管理するための特別なICチップです。暗号鍵などをフラッシュメモリに残さないため、フラッシュメモリが盗まれても暗号を解析できません。

### POINT

- ▶ チップセット内蔵のセキュリティ機能 (Intel® PTT) を使用することができます。

## 2.13 防塵防滴性能

端子カバーとスロットカバーをしっかりと閉じた状態で、IP5Xの防塵性能、IPX4の防水性能を有しています。

- ・ IP5Xとは、粉塵の侵入を防止、若干の粉塵の侵入があってもタブレットとしての機能を有することを意味します。
- ・ IPX4とは、飛沫に対する保護を規定しています。散水ノズルを使用し、0.07L／分の水を最低5分間散水する条件であらゆる方向から散水しても、タブレットとしての機能を有することを意味します。

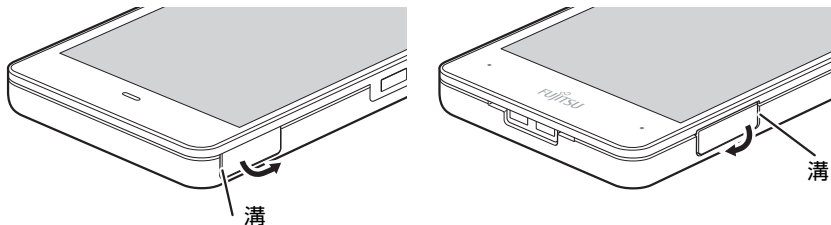
### 2.13.1 防滴性能でできること

- 1時間の雨量が20mm程度の雨の中で、傘をささずに通信ができます。
- ・ 手が濡れているときやタブレットに水滴がついているときには、端子カバーやスロットカバーの開閉はしないでください。

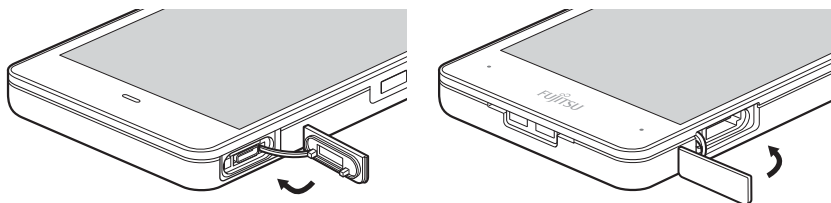
### 2.13.2 防塵防滴性能を維持するために

水の浸入を防ぐために、必ず次の点を守ってください。

- 液体をかけたり、つけたりしないでください。
- microSDカードの取り付け／取り外し時や外部接続端子を使用するときには、次の図に示す溝に指を掛けてすこし引き出し、矢印の方向にカバーを開けてください。



また、microSDカードの取り付け／取り外し後や外部接続端子使用後は、矢印のように動かしてカバーを閉じ、カバーの浮きがないことを確認してください。



- 端子カバーとスロットカバーはしっかりと閉じてください。接触面に微細なゴミ（髪の毛1本、砂粒1つ、微細な繊維など）がはさまると、浸水の原因となります。
- カバーが閉じにくい場合は、カバーの両端を同時に押し込んでください。
- スピーカーなどを綿棒やとがったものでつつかないでください。

- 落下させないでください。傷の発生などにより防塵防滴性能の劣化を招くことがあります。
- 端子カバー、スロットカバーのゴムパッキンは防塵防滴性能を維持する上で重要な役割を担っています。ゴムパッキンをはがしたり傷付けたりしないでください。また、ゴミが付着しないようにしてください。
- 端子カバーのアーム部が外れる場合があります。これはお客様が端子カバーを交換できるよう取り外し可能な仕様になっているためです。端子カバーが外れた場合は、カバー穴にアーム部を挿入してください。

 **POINT**

- ▶ 防塵防滴性能を維持するため、異常の有無にかかわらず必ず2年に1回、部品の交換が必要となります。  
部品の交換はタブレットをお預かりして有料にて承ります。「富士通ハードウェア修理相談センター」までお問い合わせください。

# 3

## 第3章

---

### 周辺機器

周辺機器の取り付け方法や注意事項を説明しています。

3.1 周辺機器を取り付ける前に .....	56
3.2 充電専用クレードル .....	57
3.3 コネクタの接続／取り外し .....	60

## 3.1 周辺機器を取り付ける前に

ここでは、周辺機器を取り付ける前に知っておいていただきたいことを説明しています。必ずお読みください。

### 3.1.1 注意事項

- 本タブレットに対応している弊社純正品をお使いください。詳しくは、富士通製品情報ページ内にある「システム構成図」(<http://www.fmworld.net/biz/fmv/product/syskou/>)をご覧ください。
- お使いになる周辺機器のマニュアルもあわせてご覧ください。
- 操作に必要な箇所以外は触らないでください。故障の原因となります。
- 周辺機器の取り付け／取り外しは、Windowsのセットアップが完了してから行ってください。
- お使いになる周辺機器によっては、取り付け後にドライバーなどのインストールや設定が必要な場合があります。詳しくは周辺機器のマニュアルをご覧ください。
- 一度に取り付ける周辺機器は1つだけにしてください。一度に複数の周辺機器を取り付けると、ドライバーのインストールなどが正常に行われなくなることがあります。1つの周辺機器の取り付けが終了して、動作確認を行った後、別の周辺機器を取り付けてください。
- 一般的には周辺機器の電源を入れてからタブレット本体の電源を入れ、タブレット本体の電源を切ってから周辺機器の電源を切ります。ただし、周辺機器によっては逆の順序が必要な場合があります。詳しくは周辺機器のマニュアルをご覧ください。
- 弊社純正品以外の周辺機器を接続する場合は、BIOSセットアップの「詳細」メニューの「各種設定」→「ハードウェア省電力機能」を「使用しない」に設定してください。



## 3.2 充電専用クレードル

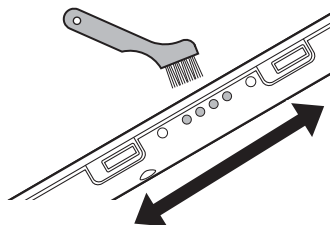
**対象** 充電専用クレードル使用時

タブレット本体に充電専用クレードルを取り付けると、タブレット本体の充電を開始します。

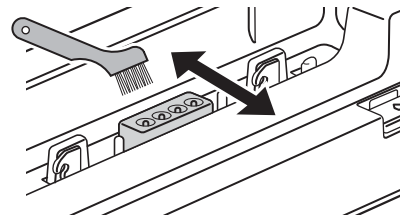
ここでは、充電専用クレードルの取り付け、取り外し方法について説明しています。必ず「3.1 周辺機器を取り付ける前に」(→P.56)をお読みになってから作業をしてください。

### 3.2.1 注意事項

- 充電専用クレードルを取り付けた状態では、本タブレットを持ち運ばないでください。タブレット本体および充電専用クレードルのコネクタの破損の原因となります。
- 本タブレットおよび充電専用クレードルのコネクタには指で触れないでください。
- コネクタ部に水などの液体が付いた状態では、絶対に充電しないでください。
- タブレット本体が濡れている場合は、乾いた清潔な布などで水気を拭き取り、乾燥させてから充電してください。
- タブレット本体と充電専用クレードルの接続コネクタ部が汚れていると、充電専用クレードルが使用できないことがあります。その場合はタブレット本体と充電専用クレードルの接続コネクタ部を、添付のブラシで清掃してから再度接続してください。また充電専用クレードル側の接続コネクタ部は指で触れないでください。汚れが付着する原因となります。



ドッキングコネクタ  
(タブレット本体)



本体接続コネクタ  
(充電専用クレードル)

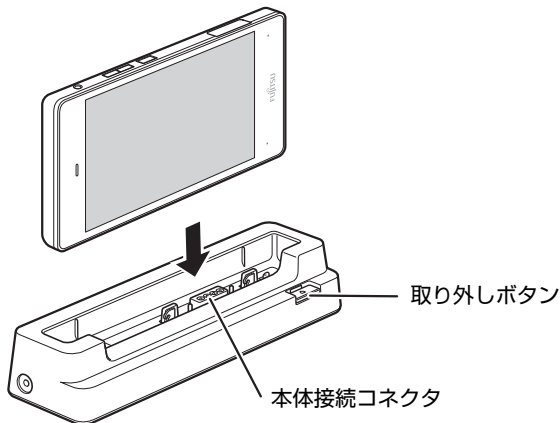
- 充電専用クレードルをお使いになる場合は、必ず充電専用クレードルのDC-INコネクタに充電専用クレードル専用のACアダプタを接続してください。

### 3.2.2 充電専用クレードルを取り付ける

- 1 タブレット本体のコネクタから、周辺機器を取り外します (→P.60)。
- 2 充電専用クレードルの取り外しボタンを押して、赤いマークを確認します。
- 3 充電専用クレードルとタブレット本体を接続します。  
タブレット本体の充電専用クレードル接続コネクタと、充電専用クレードルの本体接続コネクタの位置を合わせて、タブレット本体をまっすぐ下します。

#### 重要

- ▶ 充電専用クレードルとタブレット本体が並行になるように取り付けてください。
- ▶ 固くて水平な場所に置いてください。  
ソファの上など、柔らかい場所に置くと本体が傾いてしまうことがあります。
- ▶ 周囲に物を置かないでください。  
周りに物があると、正しくセットできないことがあります。

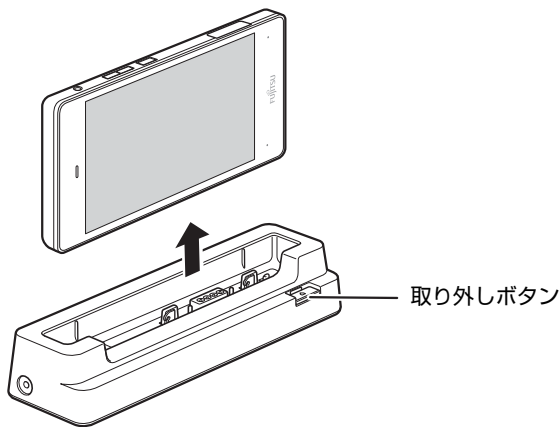


### 3.2.3 充電専用クレードルを取り外す

- 1 タブレット本体を充電専用クレードルから取り外します。  
本体に手を添えて、充電専用クレードルの取り外しボタンを押し、充電専用クレードルに沿ってタブレット本体を持ち上げます。

#### 重要

- ▶ 充電専用クレードルの取り外しボタンを押す前に、タブレット本体を持ち上げないでください。  
タブレット本体を持ち上げていると、充電専用クレードルの取り外しボタンが押せない場合があります。



## 3.3 コネクタの接続／取り外し

ここでは、タブレット本体周辺機器を接続したり、取り外したりする一般的な方法について説明しています。

接続する周辺機器やケーブルのマニュアルもあわせてご覧ください。また、それぞれのコネクタの仕様については、「5.1 本体仕様」(→P.65)をご覧ください。

必ず「3.1 周辺機器を取り付ける前に」(→P.56)をお読みになってから作業をしてください。

### 3.3.1 注意事項

- ご購入時の構成によっては、記載されているコネクタの一部は搭載されていません。
- 周辺機器のコネクタの形状によっては、接続できなかつたり、隣接するコネクタに接続された周辺機器と干渉したりする場合があります。周辺機器を接続する前に確認してください。
- 周辺機器によっては、接続したり取り外したりするときに、コネクタの仕様にかかわらずタブレット本体の電源を切る必要があるものがあります。詳しくは周辺機器のマニュアルをご覧ください。
- ディスプレイに表示されるまで、しばらく時間がかかることがあります。

### 3.3.2 USBコネクタ

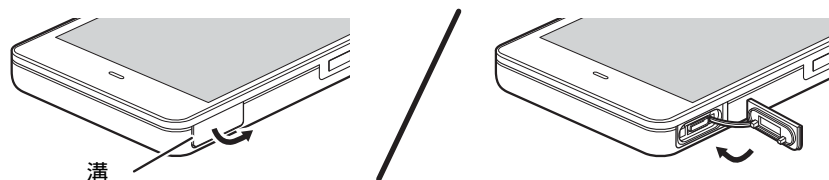


USB Type-Cコネクタ

USB対応周辺機器を接続します。タブレット本体の電源を入れたまま接続、取り外しできます。

#### POINT

- ▶ USBコネクタを使用する場合は、溝に指をかけ、端子カバーを開けてください。  
USBコネクタ使用後は、水の浸入を防ぐため、端子カバーをしっかりと閉じてください。



#### ■ 接続する

- 1 USBコネクタに、USB対応周辺機器のケーブルを接続します。  
コネクタの形を互いに合わせまっすぐに差し込んでください。

## ■ 取り外す



- ▶ USB対応周辺機器によっては、取り外す前に「ハードウェアの安全な取り外し」の操作が必要になる場合があります。詳しくはお使いのUSB対応周辺機器のマニュアルをご覧ください。

- 1 「ハードウェアの安全な取り外し」が必要な場合は次の操作を行います。
  1. デスクトップ画面右下の通知領域にある「ハードウェアの安全な取り外し」アイコン (🔌) をタップします。
  2. 取り外すデバイスをタップし、表示されるメッセージに従ってデバイスを停止します。
- 2 ケーブルのコネクタをまっすぐに引き抜きます。

### 3.3.3 オーディオ端子

---

オーディオ機器を接続します。タブレット本体の電源を入れたまま接続、取り外しできます。

#### ■ 接続する

- 1 ヘッドホン・ヘッドセット兼用端子に、オーディオ機器のケーブルを接続します。  
まっすぐに差し込んでください。

#### ■ 取り外す

- 1 ケーブルのコネクタをまっすぐに引き抜きます。

# 4

## 第4章

---

### お手入れ

快適にお使いいただくためのお手入れ方法を説明しています。

4.1 日常のお手入れ .....	63
-------------------	----

## 4.1 日常のお手入れ

タブレット本体や周辺機器を長時間使用していると、汚れが付いたり、ほこりがたまってしまいます。ここでは、日常のお手入れのしかたを説明しています。

### 4.1.1 タブレット本体、充電専用クレードルの表面の汚れ

乾いた柔らかい布で拭き取ってください。

汚れがひどい場合は、水または水で薄めた中性洗剤を含ませた布を、固く絞って拭き取ってください。中性洗剤を使用して拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って中性洗剤を拭き取ってください。

#### 重要

- ▶ 拭き取るときは、内部に水が入らないよう十分に注意してください。
- ▶ シンナーやベンジンなど揮発性の強いものや、化学ぞうきんは使わないでください。損傷する原因となります。

### 4.1.2 液晶ディスプレイ／タッチパネル

つめや指輪などで傷を付けないように注意しながら、乾いた柔らかい布かメガネ拭きを使って軽く拭き取ってください。水や中性洗剤を使用して拭かないでください。

#### 重要

- ▶ 液晶ディスプレイ／タッチパネルの表面を固いものでこすったり、強く押しつけたりしないでください。液晶ディスプレイ／タッチパネルが破損するおそれがあります。
- ▶ 化学ぞうきんや市販のクリーナーを使うと、成分によっては、画面表面のコーティングを傷めるおそれがあります。次のものは使わないでください。
  - ・ アルカリ性成分を含んだもの
  - ・ 界面活性剤を含んだもの
  - ・ アルコール成分を含んだもの
  - ・ シンナーやベンジンなどの揮発性の強いもの
  - ・ 研磨剤を含むもの
- ▶ 液晶ディスプレイ／タッチパネル表面を激しくこすると、静電気が発生することがあります。ご注意ください。

# 5

## 第5章 仕様

---

本製品の仕様を記載しています。

5.1 本体仕様 .....	65
5.2 CPU .....	68
5.3 ディスプレイ .....	69
5.4 無線LAN .....	71



## 5.1 本体仕様

### 5.1.1 ARROWS Tab V567/R

製品名称		ARROWS Tab V567/R	
CPU <sup>注1</sup>	名称	インテル® Atom™ プロセッサ x5-Z8550	
	動作周波数	1.44GHz (最大2.40GHz <sup>注2</sup> )	
	コア数/スレッド数	4/4	
	キャッシュメモリ	2次: 2MB	
メインメモリ (オンボード)		標準4GB (LPDDR3-1600)	
表示機能	グラフィックスアクセラレータ	Intel® HD Graphics 400 (CPUに内蔵)	
	ビデオメモリ	メインメモリと共用	
	液晶ディスプレイ <sup>注3</sup>	LEDバックライト付 6.0型ワイド TFTカラー、IPS液晶 (グレア処理)	
	解像度/発色数 <sup>注4</sup>	液晶ディスプレイ表示	フルHD (1080×1920ドット/1677万色)
		外部ディスプレイ表示	最大1920×1200ドット <sup>注5</sup> /最大1677万色
フラッシュメモリ <sup>注6</sup>		64GB (eMMC)	
オーディオ機能	オーディオコントローラー	チップセット内蔵+ High Definition Audio コーデック	
	PCM録音再生機能	サンプリング周波数: 最大192kHz、24ビットステレオ (再生時) <sup>注7</sup> サンプリング周波数: 最大96kHz、16ビットステレオ (録音時) <sup>注7</sup> 同時録音再生機能	
	MIDI再生機能	OS標準機能にてサポート	
	スピーカー	モノラルスピーカー	
	マイク	デジタルステレオマイク内蔵	
アウトカメラ		有効画素数 約800万画素 (裏面)	
ポインティングデバイス		タッチパネル (静電容量方式)	
通信機能	無線 LAN	規格	IEEE 802.11a準拠、IEEE 802.11b準拠、IEEE 802.11g準拠、 IEEE 802.11n準拠、IEEE 802.11ac準拠 (5GHz帯チャンネル: W52/W53/W56) (Wi-Fi®準拠) <sup>注8</sup>
		内蔵アンテナ	ダイバーシティ方式 <sup>注9</sup>
	Bluetooth ワイヤレステクノロジー <sup>注10</sup>		Bluetooth v4.0準拠
セキュリティ機能			
	指紋センサー	スライド式	
	NFCポート <sup>注11</sup>	あり	
	セキュリティチップ (TPM)	Intel® PTT	

製品名称		ARROWS Tab V567/R	
インターフェース	本体		
	microSDメモリーカード <sup>注12</sup>	×1スロット	
	USB Type-C <sup>注13</sup>	USB3.1 Gen1 対応、DisplayPort 1.2対応×1 (左側面) <sup>注14</sup>	
	オーディオ	ヘッドホン・ヘッドセット兼用端子	φ3.5mmステレオ・ミニジャック×1
	クレードル	×1 (専用コネクタ)	
	状態表示	LED	
電源供給方式		ACアダプタ <sup>注15</sup>	入力AC100V～240V、出力DC5V (2A)
		バッテリー	リチウムイオン15Wh (取り外し不可)
バッテリー駆動時間 <sup>注16</sup> (JEITA測定法2.0 <sup>注17</sup> )		約6.1時間	
バッテリー充電時間 <sup>注18</sup>		約3.1時間	
消費電力 <sup>注19</sup> (最大時)		約4.3W (約10W)	
外形寸法 (突起部含まず)		W85.4×D180×H15.9mm (本体のみ) W210×D59.8×H38.5mm (充電専用クレードルのみ)	
質量		約280g (本体のみ) 約160g (充電専用クレードルのみ)	
電波障害対策		VCCIクラスB	
省エネ法に基づくエネルギー消費効率		富士通製品情報ページ ( <a href="http://www.fmworld.net/biz/">http://www.fmworld.net/biz/</a> ) にある、製品情報の仕様をご覧ください。	
温湿度条件		温度5～35℃/湿度20～80%RH (動作時) 温度-10～60℃/湿度20～80%RH (非動作時) (ただし、動作時、非動作時とも結露しないこと)	
防滴・防塵		IPX4 / IP5X	
プレインストールOS <sup>注20</sup>		Windows 10 Pro (64ビット版)	
サポートOS <sup>注20</sup> <sup>注21</sup>		Windows 10 Enterprise LTSB Upgrade 2016 (64ビット版)、 Windows 10 Enterprise (64ビット版)、 Windows 10 Pro (64ビット版)	

本タブレットの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

- 注1 : ・ ソフトウェアによっては、CPU名表記が異なる場合があります。  
・ 本タブレットに搭載されているCPUで使用できる主な機能については、「5.2 CPU」(→P.68)をご覧ください。
- 注2 : インテル® バースト・テクノロジー (→P.68) 動作時。
- 注3 : 以下は液晶ディスプレイの特性です。これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。  
・ 液晶ディスプレイは非常に精度の高い技術で作られておりますが、画面の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合があります (有効ドット数の割合は99.99%以上です。有効ドット数の割合とは「対応するディスプレイの表示しうる全ドット数のうち、表示可能なドット数の割合」を示しています)。  
・ 製造工程上やご利用環境によって空気中の微細な異物が混入する場合があります。  
・ 本タブレットで使用している液晶ディスプレイは、製造工程により、各製品で色合いが異なる場合があります。また、温度変化などで多少の色むらが発生する場合があります。  
・ 長時間同じ表示を続けると残像となることがあります。残像は、しばらくすると消えます。この現象を防ぐためには、省電力機能を使用してディスプレイの電源を切るか、スクリーンセーバーの使用をお勧めします。省電力機能などを利用して、自動的にディスプレイの電源を切る設定は、「電源オプション」ウィンドウ左の「ディスプレイの電源を切る時間の指定」から行えます。  
・ 表示する条件によってはムラおよび微少な点が目立つことがあります。
- 注4 : ・ グラフィックスアクセラレータが出力する最大発色数は1677万色ですが、液晶ディスプレイではディザリング機能によって、擬似的に表示されます。  
・ 外部ディスプレイに出力する場合は、お使いの外部ディスプレイがこの解像度をサポートしている必要があります。
- 注5 : アナログRGB出力の最大サポート解像度は1920×1200ドット、60Hz (CVT RB : Coordinated Video Timings Reduced Blanking) です。  
お使いのディスプレイが1920×1200ドット表示をCVT RBで対応していれば選択できますが、CVT RBではなく、Standard Timingsで対応している場合には選択できず、1680×1050などの解像度が選択可能な最大解像度になります。
- 注6 : 容量は、1GB=1000<sup>3</sup>バイト換算値です。
- 注7 : 使用できるサンプリングレートは、ソフトウェアによって異なります。
- 注8 : Wi-Fi® 準拠とは、無線LANの相互接続性を保証する団体「Wi-Fi Alliance®」の相互接続性テストに合格していることを示しています。
- 注9 : IEEE 802.11n準拠、IEEE 802.11ac準拠を使用したときは、MIMO方式にもなります。
- 注10 : すべてのBluetoothワイヤレステクノロジー対応周辺機器の動作を保証するものではありません。
- 注11 : カスタムメイドの選択によって搭載されています。
- 注12 : ・ すべてのmicroSDメモリーカードの動作を保証するものではありません。  
・ 著作権保護機能には対応していません。  
・ ご使用可能なmicroSDカードは最大2GB、microSDHCメモリーカードは最大32GB、microSDXCカードは最大128GBまでとなります。
- 注13 : すべてのUSB対応周辺機器、DisplayPortの動作を保証するものではありません。
- 注14 : USB Type-Cのポートについて、外部から電源が供給されない周辺機器を接続するときの消費電流の最大容量は0.9Aです。
- 注15 : 標準添付されている電源ケーブルはAC100V (国内専用品) 用です。また、矩形波が出力される機器 (UPS (無停電電源装置) や車載用AC電源など) に接続されると故障する場合があります。
- 注16 : バッテリー駆動時間は、ご利用状況やカスタムメイド構成によっては記載時間と異なる場合があります。
- 注17 : 一般社団法人電子情報技術産業協会の「JEITAバッテリー動作時間測定法 (Ver. 2.0)」 (<http://home.jeita.or.jp/cgi-bin/page/detail.cgi?n=84&ca=14>) に基づいて測定。
- 注18 : 電源オフ時および省電力状態時。装置の動作状況により充電時間が長くなる場合があります。
- 注19 : ・ 当社測定基準によります (標準搭載メモリ、標準フラッシュメモリ容量、無線LAN / Bluetoothワイヤレステクノロジー OFF、LCD輝度最小)。  
・ 電源オフ時の消費電力 (満充電時) は、約0.2W以下です。  
電源オフ時の消費電力を0にするには、電源ケーブルをコンセントから抜いてください。
- 注20 : 日本語版。
- 注21 : ・ 富士通は、本製品で「サポートOS」を動作させるために必要なBIOSおよびドライバーを提供しますが、すべての機能を保証するものではありません。  
・ Windowsを新規にインストールする場合は、『製品ガイド (共通編)』の「付録2 Windowsの新規インストールについて」をご覧ください。

## 5.2 CPU

---

本タブレットに搭載されているCPUで使用できる主な機能は、次のとおりです。

### ■ インテル® バースト・テクノロジー

インテル®バースト・テクノロジーは、CPUの負荷状況にあわせてパフォーマンスを引き上げる機能です。

#### POINT

- ▶ OSおよびソフトウェアの動作状況や設置環境などにより処理能力は変わります。性能向上量は保証できません。

### ■ インテル® バーチャライゼーション・テクノロジー

インテル®バーチャライゼーション・テクノロジーは、本機能をサポートするVMM（仮想マシンモニター）をインストールすることによって、仮想マシンの性能と安全性を向上させるための機能です。

## 5.3 ディスプレイ

### 5.3.1 シングル表示／拡張デスクトップ表示の解像度

タブレット本体の液晶ディスプレイまたは外部ディスプレイのシングル表示の場合、拡張デスクトップ表示の場合に、本タブレットが出力可能な解像度です。

外部ディスプレイの場合、お使いのディスプレイが対応している解像度のみ表示できます。お使いのディスプレイのマニュアルをご覧ください。表示可能な解像度を確認してください。発色数は「32ビット」(約1677万色)です。

#### POINT

- ▶ お使いのOS、ディスプレイにより、表に記載のない解像度も選択可能な場合があります。

#### ■ タブレット本体の液晶ディスプレイ

解像度	対応
1024×768	○
1280×1024	○
1360×768	○
1440×900	○
1600×900	○
1680×1050	○
1920×1080	○

## 5.3.2 クローン表示の解像度

クローン表示する場合に設定可能な解像度は、お使いの外部ディスプレイの仕様により異なります。同時に表示する2つのディスプレイの、最大解像度より小さい解像度またはそれ未満の解像度で表示できます。

お使いのディスプレイのマニュアルをご覧になり、表示可能な解像度を確認してください。発色数は「32ビット」(約1677万色)です。

### POINT

- ▶ お使いのOS、ディスプレイにより、表に記載のない解像度も選択可能な場合があります。

### ■ タブレット本体の液晶ディスプレイ+外部ディスプレイ (アナログ接続)

解像度	対応
1024×768	○
1280×1024	○
1360×768 <sup>注1</sup>	○
1440×900 <sup>注1</sup>	○
1600×900 <sup>注1</sup>	○
1680×1050 <sup>注1</sup>	○
1920×1080 <sup>注1</sup>	○

注1 : お使いの外部ディスプレイのパネル解像度と一致した場合にご利用いただけます。

## 5.4 無線LAN

本タブレットに搭載されている無線LANの仕様は次のとおりです。

### ■ Intel(R) Dual Band Wireless-AC 7265

項目	仕様	
無線LAN規格	IEEE 802.11a準拠、IEEE 802.11b準拠、IEEE 802.11g準拠、IEEE 802.11n準拠、IEEE 802.11ac準拠 (5GHz帯チャンネル：W52/W53/W56) (Wi-Fi®準拠) 注1	
転送レート	IEEE 802.11b準拠	11～1Mbps (自動切り替え)
	IEEE 802.11a準拠 IEEE 802.11g準拠	54～6Mbps (自動切り替え)
	IEEE 802.11n準拠	300～6Mbps (自動切り替え、HT20/40対応) 注2
	IEEE 802.11ac準拠	867～6Mbps (自動切り替え、VHT20/40/80対応) 注3
セキュリティ注4	SSID (ネットワーク名) WEP (セキュリティキー (WEPキー)：64 / 128ビット) 注5 WPA-パーソナル (WPA-PSK) (TKIP/AES) WPA2-パーソナル (WPA2-PSK) (TKIP/AES) WPA-エンタープライズ (WPA) (EAP-TLS/PEAP(MSCHAPv2)) (TKIP/AES) WPA2-エンタープライズ (WPA2) (EAP-TLS/PEAP(MSCHAPv2)) (TKIP/AES) IEEE 802.1X (EAP-TLS/PEAP(MSCHAPv2))	
使用周波数範囲	2,400MHz～2,483.5MHz 5,150MHz～5,340MHz 5,460MHz～5,740MHz	
チャンネル数注6	IEEE 802.11b準拠 IEEE 802.11g準拠	1～13ch
	IEEE 802.11a準拠	W52 (36/40/44/48ch) / W53 (52/56/60/64ch) / W56 (100/104/108/112/116/120/124/128/132/136/140ch)
	IEEE 802.11n準拠	・ 2.4GHzモード 1～13ch ・ 5GHzモード W52 (36/40/44/48ch) / W53 (52/56/60/64ch) / W56 (100/104/108/112/116/120/124/128/132/136/140ch)
	IEEE 802.11ac準拠	W52 (36/40/44/48ch) / W53 (52/56/60/64ch) / W56 (100/104/108/112/116/120/124/128/132/136/140ch)

注1：Wi-Fi®準拠とは、無線LANの相互接続性を保証する団体「Wi-Fi Alliance®」の相互接続性テストに合格していることを示します。

注2：・IEEE 802.11nではHT20/40に対応しています。HT40を利用するには、無線LANアクセスポイントもHT40に対応している必要があります。

・IEEE 802.11nを使用する際の無線LANアクセスポイントの設定で、HT40の機能を有効にする場合には、周囲の電波状況を確認して他の無線局に電波干渉を与えないことを事前に確認してください。万一、他の無線局において電波干渉が発生した場合には、ただちにHT40の機能を無効にしてください。

注3：・IEEE 802.11acではVHT20/40/80に対応しています。VHT80を利用するには、無線LANアクセスポイントもVHT80に対応している必要があります。

・IEEE 802.11acを使用する際の無線LANアクセスポイントの設定で、VHT40/80の機能を有効にする場合には、周囲の電波状況を確認して他の無線局に電波干渉を与えないことを事前に確認してください。万一、他の無線局において電波干渉が発生した場合には、ただちにVHT40/80の機能を無効にしてください。

注4：IEEE 802.11n、IEEE 802.11acで接続するためには、パスフレーズ (PSK) をAESに設定する必要があります。

注5：WEPによる暗号化は上記ビット数で行いますが、ユーザーが設定可能なビット数は固定長24ビットを引いた40ビット/104ビットです。

注6：このタブレットに搭載されている無線LANのIEEE 802.11bでは、無線チャンネルとしてチャンネル1～13を使用しています。無線LANアクセスポイントのチャンネルを、1～13の間で設定してください。設定方法については、無線LANアクセスポイントのマニュアルをご覧ください。

□ 5GHz帯のチャンネルについて

IEEE802.11b/g/n

IEEE802.11a/n/ac

~~W52~~ W52 W53 W56

IEEE 802.11a/b/g/n/ac 準拠の無線LANを搭載した機種では、5GHzの周波数帯において、次のチャンネルを使用できます。

- W52 : 36 (5,180MHz) /40 (5,200MHz) /44 (5,220MHz) /48 (5,240MHz)
- W53 : 52 (5,260MHz) /56 (5,280MHz) /60 (5,300MHz) /64 (5,320MHz)
- W56 : 100 (5,500MHz) /104 (5,520MHz) /108 (5,540MHz) /112 (5,560MHz) /  
116 (5,580MHz) /120 (5,600MHz) /124 (5,620MHz) /128 (5,640MHz) /  
132 (5,660MHz) /136 (5,680MHz) /140 (5,700MHz)

5GHz帯を使用する場合は、上記チャンネルを利用できる無線LAN製品とのみ通信が可能です。



---

ARROWS Tab  
V567/R

製品ガイド  
B5FK-9541-01 Z0-00

発行日 2017年8月  
発行責任 富士通株式会社

〒105-7123 東京都港区東新橋1-5-2 汐留シティセンター

---

- このマニュアルの内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- このマニュアルに記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。